第4章　市民アンケート調査結果

4-1.　各地区の公共交通に関する意向調査

4-1-1.　調査の概要

1）目的

・各地区のこれからの公共交通に関する意向を把握し、公共交通事業者、福祉事業所等と連携した新たな公共交通の実現に向けた検討に活用するため。

・令和 2 年（2020 年）度策定予定の山形市地域公共交通計画を検討する際の参考とするため。

・令和 3 年（2021 年）度から予定するモデル事業を選定する際の参考とするため。

2）対象

・市内全 30 地区

3）調査方法

・各地区の自治推進委員長あて調査を依頼

4）調査日

・令和 2 年（2020 年）2 月 4 日開催の自治推進委員長会議で調査票を配布、同年 2 月 28 日までに回答

5）調査内容

公共交通の検討に向けた意向調査

【目的】
○各地区のこれからの公共交通に関する意向を把握し、公共交通事業者、福祉事業所等と連携した新たな公共交通の実現に向けた検討に活用させていただきます。
○令和２年度策定予定の山形市地域公共交通網形成計画を検討する際の参考とさせていただきます。
○令和３年度から予定するモデル事業を選定（緊急性や必要性から判断します）する際の参考とさせていただきます。
※モデル事業の実施にあたり、周辺住民を対象とした詳細なアンケート調査を行う場合があります。
※今後検討を進めるにあたり、企画調整課・長寿支援課・生活支援コーディネーター（市委託事業）から連絡させていただくことがあります
【記載方法】
地区単位での回答をお願いいたします。

問い合わせ先：企画調整課交通企画係
ＴＥＬ　641-1212（内線２２２・２２３）

1　地区名

2　記入内容に関するお問い合わせ先

役職名：	お名前： 連絡先：

3　公共交通に関する意向

問１　地区として新たな公共交通がどの程度必要ですか？（該当するもの一つに○）
（　　）とても必要だと思う　　（　　）必要だと思う

問２　どのような方々に公共交通が必要ですか？（該当するものすべてに○）
（　　）高齢者　　（　　）障がい者　　（　　）子育て世代・学生等

問３　問２の方々はどのような目的で公共交通が必要ですか？（該当するものすべてに○）
（　　）通　院
　（　　）地区外の総合病院など大規模な医療機関に行くとき
　（　　）地区内の総合病院など大規模な医療機関に行くとき
　（　　）診療所など小規模な医療機関に行くとき
（　　）買い物
　（　　）地区外の大規模な小売店舗に行くとき
　（　　）地区内の大規模な小売店舗に行くとき
　（　　）小規模な小売店舗に行くとき
（　　）その他　（具体的に：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問４　地区のニーズに応じた新たな公共交通実現に向けて、地区としての検討体制が必要となりますが、その整備状況はどうですか？（該当するもの一つに○）
（　　）地区として検討体制は整っている
（　　）一部の町内会等で検討体制は整っている
（　　）検討体制はこれから検討する

問５　新たな公共交通の車両として何が望ましいですか？（該当するものすべてに○）
（　　）バス（定員２０人～５０人程度）
（　　）ジャンボタクシー（定員１０人程度）
（　　）タクシー（定員５人程度）
（　　）わからない

以上でアンケートは終了です。ご記入いただいた調査表は同封の返信用封筒に入れて２月２８日（金）までご提出ください。ご協力ありがとうございました。
なお、前回の調査表と一緒にお渡ししました返信用封筒につきましては、この調査表と一緒にお渡ししました大きいサイズの返信用封筒へ、回答と併せて同封いただければ幸いです。

4-1-2.　各地区の公共交通に関する意向調査結果

（1）各地区の公共交通の必要性

山形市の各地区への公共交通に関する意向をみると新たな公共交通を求める地区は多く、郊外地区だけでなく、バス等が便利な中心部地区でも必要としている。また、これら新たな公共交通を必要としている対象は、ほとんどの地区で高齢者が最も多く、その他障がい者や子育て世代といった回答も多い。

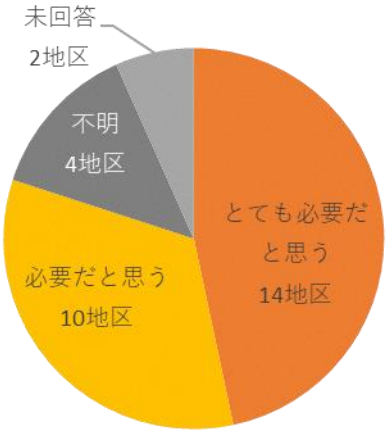


図 4-1　地区として新たな公共交通の必要性

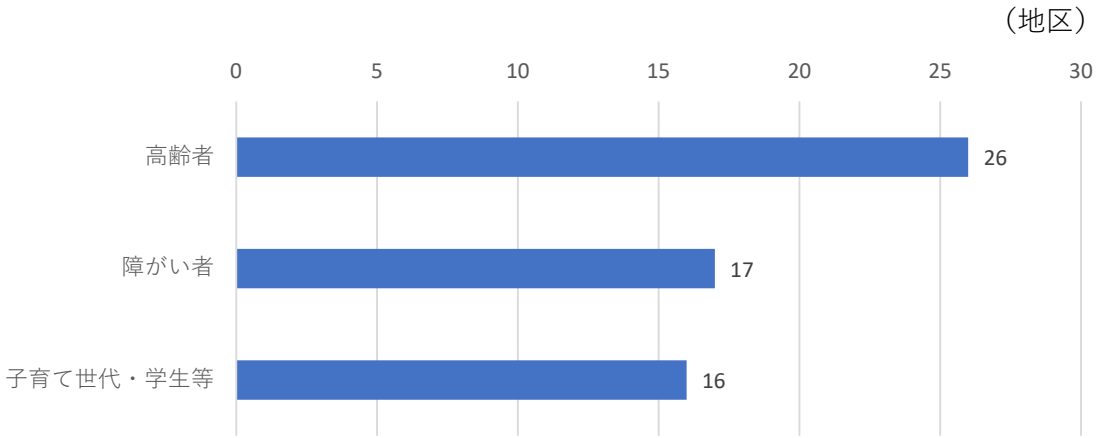


図 4-2　公共交通を必要としている対象

新たな公共交通で利用したい目的については、通院・買物が多く、地区外の大規模施設を求める地区が多い。また、必要な車両サイズについては、ジャンボタクシーやタクシー等の小型車両を求める地区が多い。

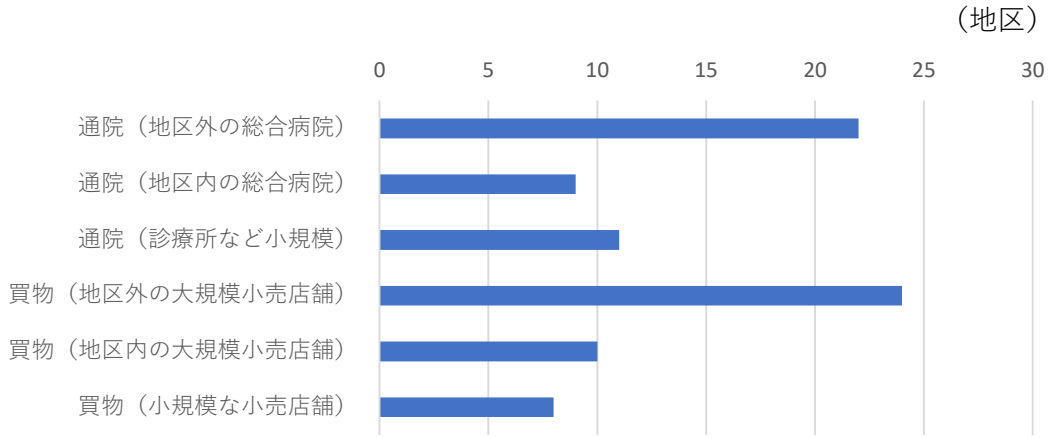


図 4-3　公共交通を必要としている方の利用目的

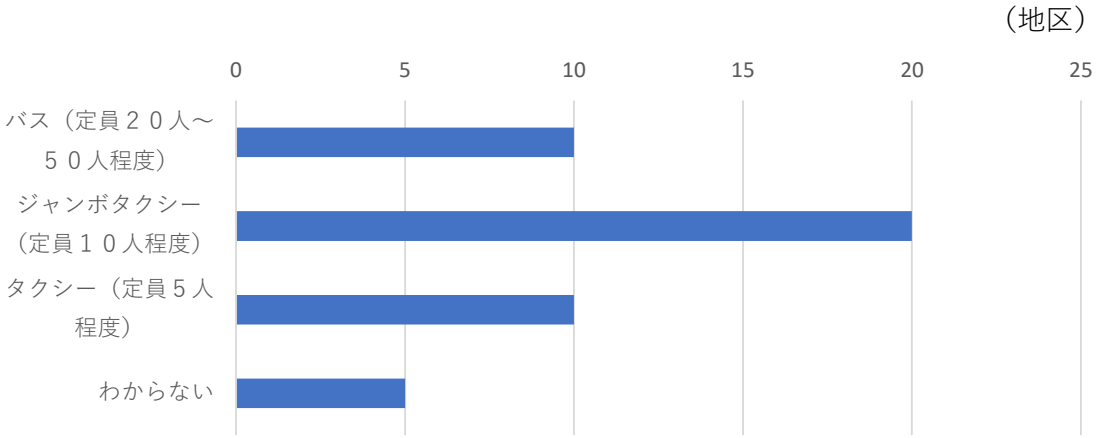


図 4-4　新たな公共交通で必要とされる車両サイズ

（2）各地区の公共交通の検討体制

地区のニーズに応じた新たな公共交通実現に向けた各地区の検討体制については、体制が整っているところはそれほど多くない状況である。

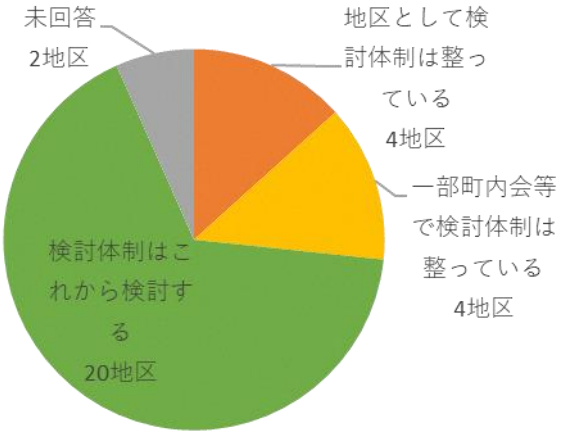


図 4-5　新たな公共交通実現に向けた地区の検討体制

4-2. バス利用者アンケート結果

4-2-1. 調査の概要

（1）路線バス利用者アンケート

1）目的

・利用者が多く幹線的な系統となる路線の利便性向上に向けたニーズを把握するため。

2）対象

・路線バス利用者

3）調査方法

・バス停にて乗車待ち列に並んでいるバス利用者にハガキ形式のアンケート票を配布
・郵送回収もしくは Web フォームにて回答
・配布場所：山形駅前、山交ビル、山形市役所前

4）調査日

・平日調査：令和 2 年（2020 年）10 月 22 日（水）7:00～19:00
・休日調査：令和 2 年（2020 年）10 月 18 日（日）9:00～17:00

5）配布数及び回答数

・配布数：平日 585 枚、休日 316 枚、計 901 枚
・回答数：平日 229 枚、休日 131 枚、計 360 枚（回答率：40%）

6）調査内容

料金受取人払郵便

仙台中央局
承認
7018

差出有効期間
令和２年
12月31日まで
（切手不要）

9808783

＜受取人＞
仙台市青葉区二日町３－１０
グランシャリオビル

一般財団法人 計量計画研究所
山形市バス利用者アンケート調査担当 行

路線バスに関するアンケートのお願い

山形市では、公共交通の利便性や効率の向上を図ることを目的に、平成28年に山形市地域公共交通網形成計画を策定いたしました。策定から4年間の取り組み状況を踏まえ、新たな計画の策定を検討しています。誰もが快適に利用できる公共交通網の構築を目指すため、路線バスをご利用の皆様に、ご利用状況やご要望などを把握するアンケート調査を実施いたします。

大変お忙しいところ恐縮ではございますが、本ハガキに記載された設問にご回答の上、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。回答はWEBからも行っていただくことができます。回答内容は本調査の目的のみに使用することとし、本人が特定されないように処理いたしますので、何卒ご協力のほど宜しくお願い致します。

山形市 企画調整部 企画調整課
023-641-1212（内線222）

WEBからも回答できます▶▶▶
https://forms.gle/UqJKHbW6iXubcNVz7

締め切り：10月31日

問1. あなたご自身のことについてお答えください。

性別	①男性　②女性　　年齢（　　）歳
職業	①会社員　②公務員　③団体職員　④自営業　⑤主婦・主夫 ⑥学生・生徒　⑦無職　⑧その他（　　）
住所（丁目・大字まで）	（　　）市・区 町・村（　　町　　丁目／大字　　）
運転免許	①持っている　②持っていたが返納した　③持っていない
通勤・通学先（丁目・大字まで）	（　　）市・区 町・村（　　町　　丁目／大字　　）

裏面もお答えください。

調査員記入欄　場所 1・2・3　時間 1・2・3・4・5　平
路線 1・2・3・4・5・6・7・8・9

問2. 本日利用したバスについてお答えください。

利用区間	（山形市中心部）～（バス停名称　　）
利用頻度	①ほぼ毎日　②週4～5回　③週2～3回 ④週1回　⑤月1～2回　⑥数か月に1回
外出目的	①通勤　②通学　③趣味・娯楽・社交　④買物　⑤通院 ⑥その他（　　）
目的地	施設名称または住所（丁目・大字までご記入ください）（　　）
支払方法	①現金　②定期券　③回数券　④その他（　　）
他の交通手段との乗り継ぎ	①なし　②鉄道　③高速バス　④路線バス　⑤自分で運転する車 ⑥送迎の車　⑦その他（　　）

今回利用したバス路線のどのような点が改善されれば使いやすくなると思いますか。（3つまで）

①便数を増やしてほしい
　→（平日／土日祝）の（午前／午後）（　　）時頃に（停留所名　　）から（停留所名　　）へ行く便
②定期券の運賃を下げてほしい
③定期券以外の運賃を下げてほしい
④乗り降りしやすい車両を使用してほしい
⑤鉄道との接続を改善してほしい
　→（平日／土日祝）の（午前／午後）（　　）時頃の（　　）駅（発・着）の電車との接続
⑥ほかのバス路線との接続を改善してほしい
⑦時刻表通りに運行してほしい
⑧停留所を増やしてほしい
　→（　　）の付近
⑨停留所に屋根やベンチを設置してほしい
⑩Suicaなどの交通系ICカードを導入してほしい
⑪車内Wi-Fiを導入してほしい
⑫新型コロナウイルス感染予防（換気、消毒、車内混雑情報提供など）
⑬その他（　　）

問3. 今回利用する区間の交通手段についてお答えください。

この区間をバス以外で移動する頻度	①ほぼ毎日　②週4～5回　③週2～3回　④週1回 ⑤月1～2回　⑥数か月に1回　⑦雨・雪の日だけ
バス以外で移動する場合の移動方法	①自分で運転する車　②送迎の車　③自転車　④徒歩 ⑤タクシー　⑥電車　⑦その他（　　）
バスを使わない理由（最もあてはまるもの1つ）	①バスだと時間がかかるから ②目的地が複数あるから ③暑さ・雨でバス停前後の移動やバス停で待つ際に苦痛だから ④雪でバス停前後の移動が歩きづらいから ⑤家族・友人と一緒に移動するため ⑥荷物があるため ⑦その他（　　）

ご回答ありがとうございました。

（2）ベニちゃんバスの利用者アンケート

1）目的

・山形市中心部を循環するベニちゃんバスを対象に、移動ニーズや中心市街地での回遊・消費活動との関係について把握するため。

2）対象

・ベニちゃんバス利用者

3）調査方法

・バス停にて乗車待ち列に並んでいるバス利用者にアンケート票を配布、もしくは、山形駅での時間調整停車中にバスに乗車してアンケート票を配布
・ビンゴカード形式アンケート票を用い、バス車両内に設置した調査票回収箱で回収
・配布場所：山形駅前、山形市役所南口、七日町

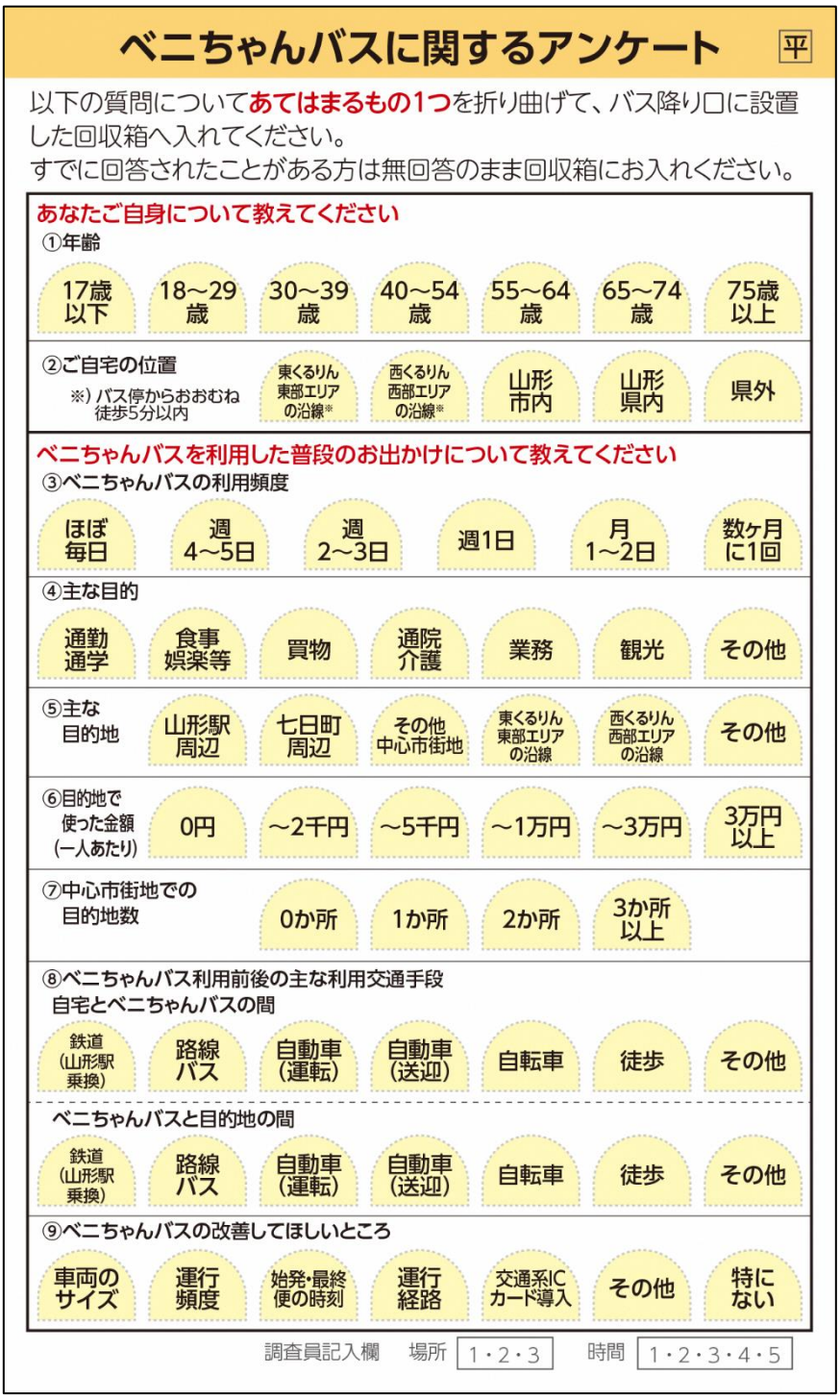
4）調査日

・平日調査：令和 2 年（2020 年）10 月 22 日（水）7:00～19:00
・休日調査：令和 2 年（2020 年）10 月 18 日（日）9:00～17:00

5）配布数及び回答数

・配布数：平日 242 枚、休日 190 枚、計 432 枚
・回答数：平日 232 枚、休日 177 枚、計 409 枚（回答率：95%）

6）調査内容



ベニちゃんバスに関するアンケート　平

以下の質問について**あてはまるもの1つ**を折り曲げて、バス降り口に設置した回収箱へ入れてください。
すでに回答されたことがある方は無回答のまま回収箱にお入れください。

あなたご自身について教えてください

①年齢
17歳以下 / 18～29歳 / 30～39歳 / 40～54歳 / 55～64歳 / 65～74歳 / 75歳以上

②ご自宅の位置
※）バス停からおおむね徒歩5分以内
東くるりん東部エリアの沿線※ / 西くるりん西部エリアの沿線※ / 山形市内 / 山形県内 / 県外

ベニちゃんバスを利用した普段のお出かけについて教えてください

③ベニちゃんバスの利用頻度
ほぼ毎日 / 週4～5日 / 週2～3日 / 週1日 / 月1～2日 / 数ヶ月に1回

④主な目的
通勤通学 / 食事娯楽等 / 買物 / 通院介護 / 業務 / 観光 / その他

⑤主な目的地
山形駅周辺 / 七日町周辺 / その他中心市街地 / 東くるりん東部エリアの沿線 / 西くるりん西部エリアの沿線 / その他

⑥目的地で使った金額（一人あたり）
0円 / ～2千円 / ～5千円 / ～1万円 / ～3万円 / 3万円以上

⑦中心市街地での目的地数
0か所 / 1か所 / 2か所 / 3か所以上

⑧ベニちゃんバス利用前後の主な利用交通手段
自宅とベニちゃんバスの間
鉄道（山形駅乗換） / 路線バス / 自動車（運転） / 自動車（送迎） / 自転車 / 徒歩 / その他

ベニちゃんバスと目的地の間
鉄道（山形駅乗換） / 路線バス / 自動車（運転） / 自動車（送迎） / 自転車 / 徒歩 / その他

⑨ベニちゃんバスの改善してほしいところ
車両のサイズ / 運行頻度 / 始発・最終便の時刻 / 運行経路 / 交通系ICカード導入 / その他 / 特にない

調査員記入欄　場所 1・2・3　時間 1・2・3・4・5

4-2-2. 路線バスの利用者アンケート結果

（1）利用実態

路線バスは、平日は多くの年齢層に利用されており、休日は 65 歳以上の高齢者が 6 割を占めている。

路線バスの利用者のうち自動車免許の非保有者は、平日は 5 割、休日は 7 割となっており、休日の利用者は自動車免許の非保有者が主な利用者である。

路線バスの利用目的は、平日は通勤が多く、次いで買物、通院となっている。休日は、買物、趣味・娯楽・社交での利用が多く、特に平日・休日ともに買物の移動の役に立っている。

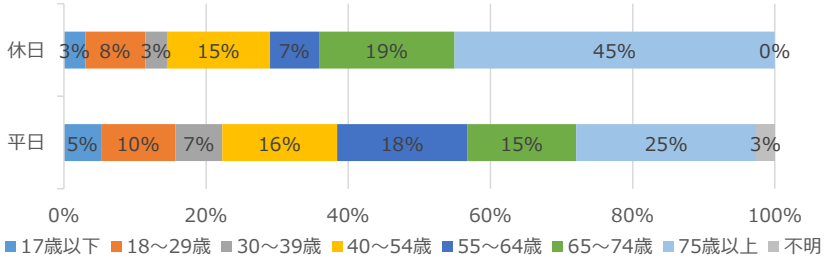


図 4-6 路線バス利用者の年齢別構成比（平日・休日別）

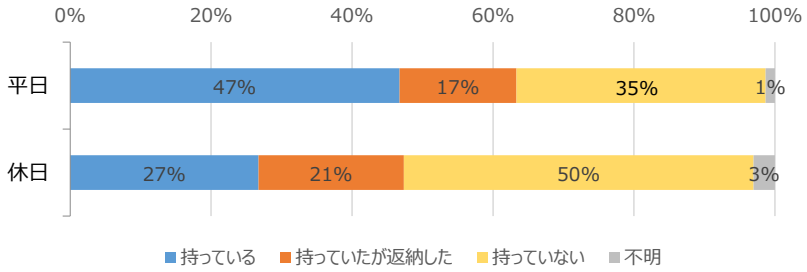


図 4-7 路線バス利用者の免許保有状況別構成比（平日・休日別）

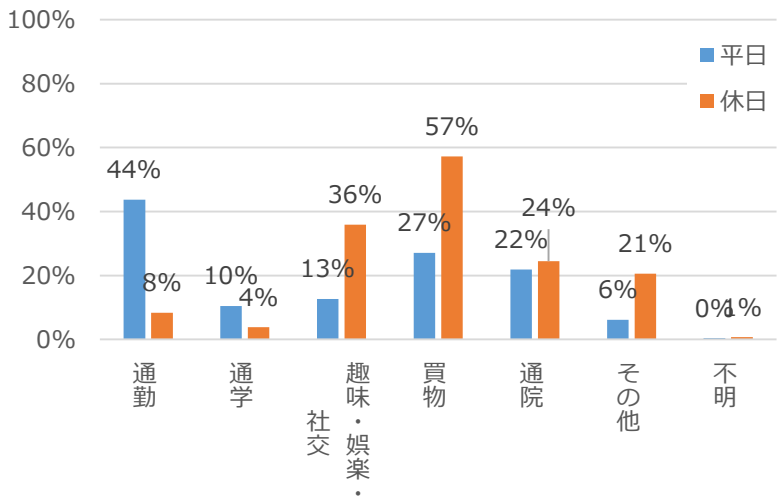
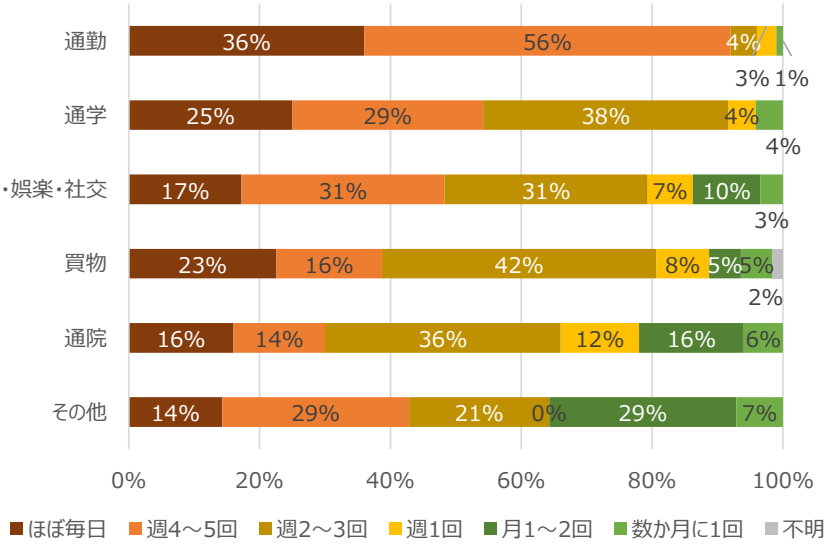


図 4-8 路線バス利用者の外出の目的（平日・休日別）【複数回答】

買物目的では、週に 2～3 回より多く路線バスを利用する人は 7～8 割程度となっており、高頻度で路線バスを利用している。このことから、バスを普段から利用する市民にとっては、生活を送るにあたって、バスは非常に重要な移動手段となっていると言える。

【平日調査】



【休日調査】

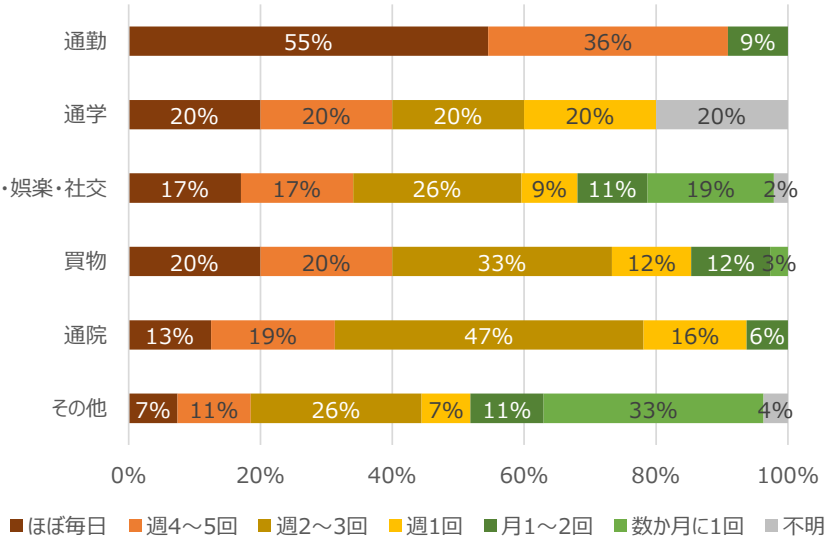


図 4-9　利用者の外出の目的別利用頻度の構成比（平日・休日別）

他の手段から乗り継いで路線バスを利用している人は平日は 4 割、休日は 5 割弱となっており、交通手段の種類に着目すると路線バス同士を乗り継いでいる利用者が 4～5 割と特に多い。

属性別では、免許を保有しない高齢者が路線バス同士の乗り継ぎを行っている。路線バスを移動の足として使い続けてもらうためには、乗継の負担を軽減するような取り組みが重要であると考えられる。

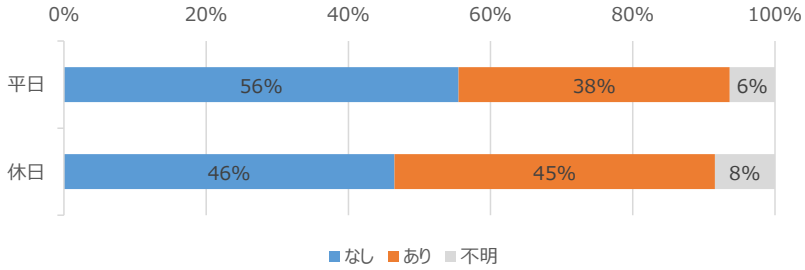


図 4-10　利用者の乗継有無の構成比（平日・休日別）

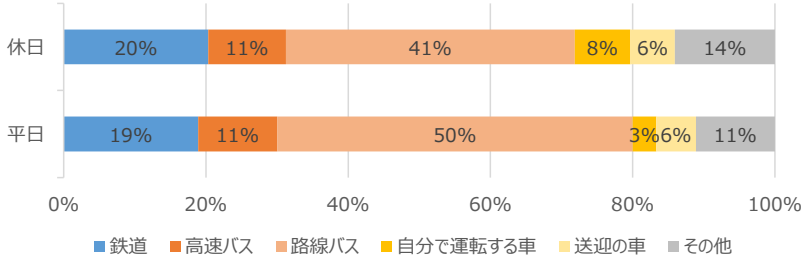
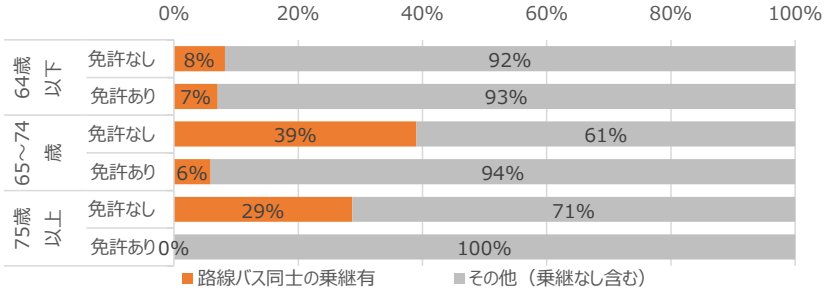


図 4-11　バスとの乗継手段の構成比（平日・休日別）



※乗継有：路線バスから路線バスを乗り継ぐ人

図 4-12　年齢層別免許保有別の路線バス乗継有無の構成比

（2）路線バスへの改善希望

全ての目的において、「便数を増やしてほしい」の要望が多い。増便の要望は、平日 9 時までと 17 時以降が多くなっている。その他、目的ごとに路線バスへの改善要望は異なる傾向にある。

通勤目的では、「時刻表通りに運行してほしい」「Suica などの交通系 IC カードを導入してほしい」など、時間や支払いの迅速性を気にした改善要望が比較的多い。

通学目的では、「定期券の運賃を下げてほしい」「Suica などの交通系 IC カードを導入してほしい」「車内 Wi-Fi を導入してほしい」など、バスの利便性向上への要望が多い。

買物・趣味・娯楽・通院目的では、「停留所に屋根やベンチを設置してほしい」「乗り降りしやすい車両を使用してほしい」など、バス利用時の身体的な負担を減らす要望が多い。

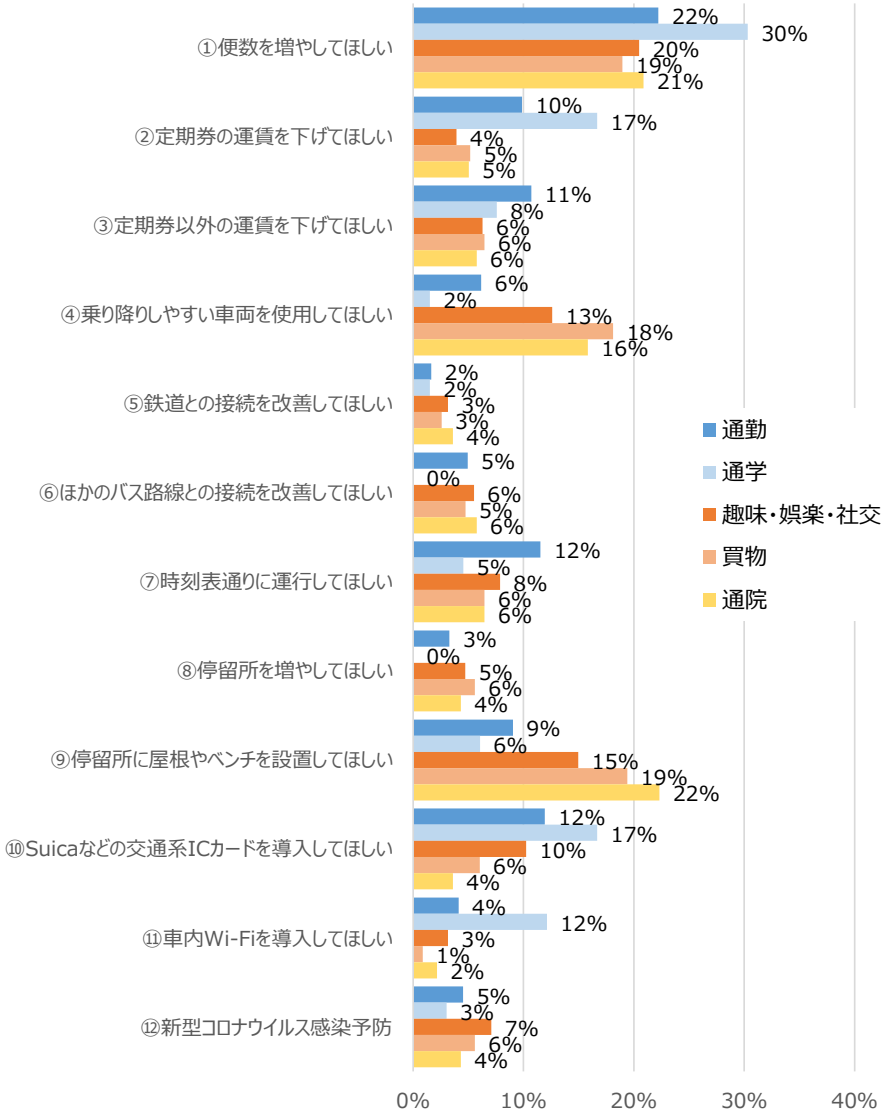


図 4-13　目的別の路線バスへの改善要望【複数回答】

(3) 路線バス以外の手段の利用について

アンケート票を受け取った際の利用区間と同じ区間を、バス以外の手段で移動する頻度は「ほぼ毎日」「週 4～5 回」「週 2～3 回以上」と回答する人で 50%を占めており、利用可能なバス路線があるにもかかわらず、他の手段を利用する機会が多いことが分かる。

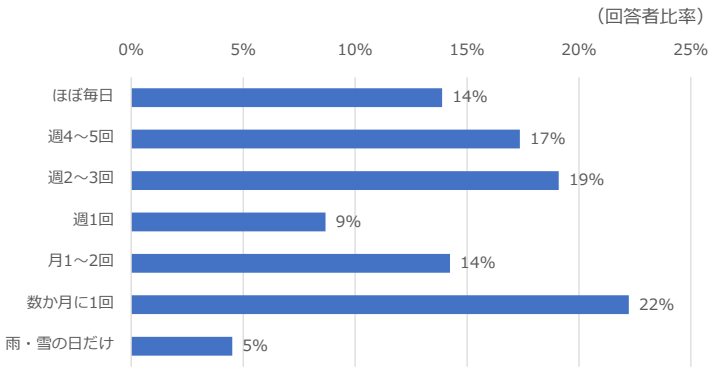
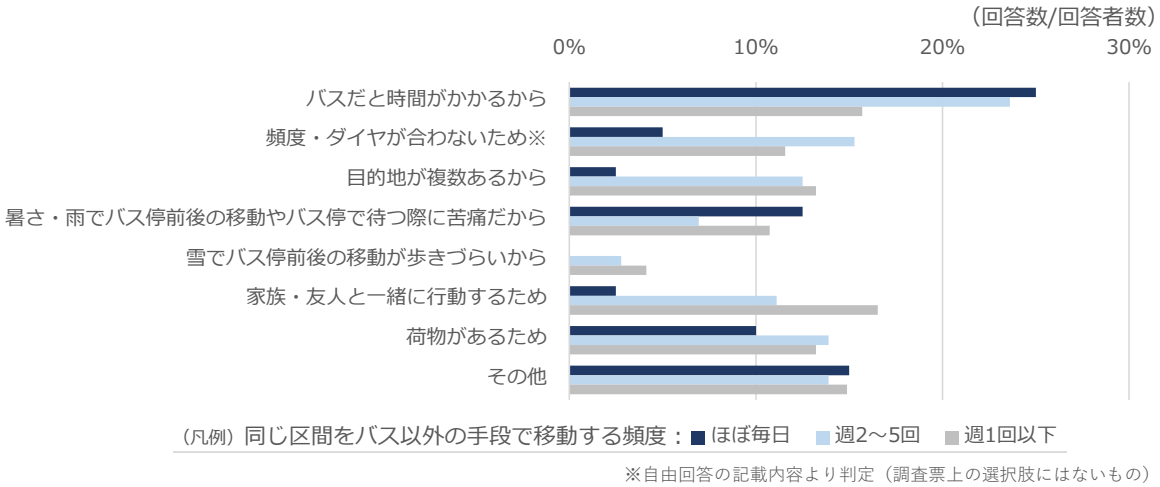


図 4-14　同じ区間を他の手段で移動する頻度

さらに、他の手段で移動する頻度とその理由の関係を見ると、他の手段での移動機会が多い人ほど「バスだと時間がかかるから」と回答する割合が高い。バスの速達性や運転頻度[注]の向上が、バスと並行する区間を高い頻度で移動する人に対するバス利用促進効果が高いと考えられる。

また、ほぼ毎日他の手段で同区間を移動する機会がある人は、「暑さ・雨でバス停前後の移動やバスを待つ際に苦痛」との理由で他の手段を利用する機会も多い。バス停の上屋設置など快適なバス待ち環境についても、バス利用促進効果が高いと考えられる。

注）バスに実際に乗っている時間だけでなく、バスの待ち時間も含め「バスだと時間がかかるから」と回答している場合も含まれていると考えられる。



※自由回答の記載内容より判定（調査票上の選択肢にはないもの）

図 4-15　他の手段で移動する理由（他の手段の利用頻度別）【複数回答

4-2-3. ベニちゃんバスの利用者アンケート結果

（1）利用実態

ベニちゃんバスは、平日・休日ともに多くの年齢層に利用されており、多くの年齢層の市民の移動の足として役立っている。

ベニちゃんバスの利用者は、平日・休日ともに運行区間の沿線の居住者だけでなく、約 8 割弱が沿線以外の居住者であり、沿線住民以外にとっても街なかを周遊する際に役立っている。

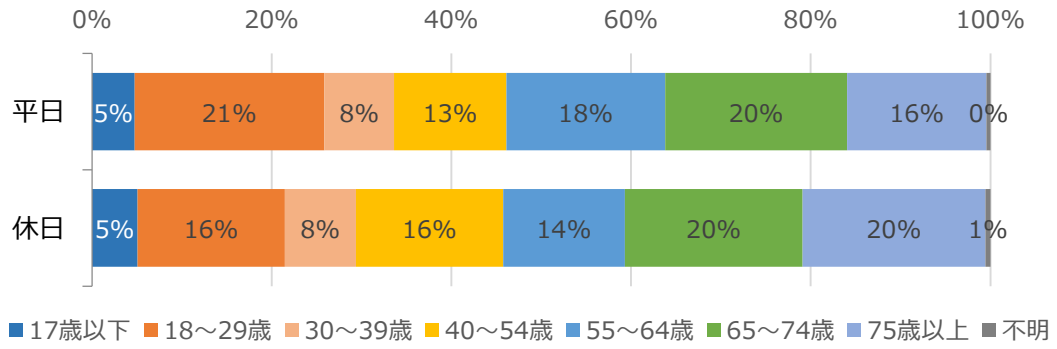
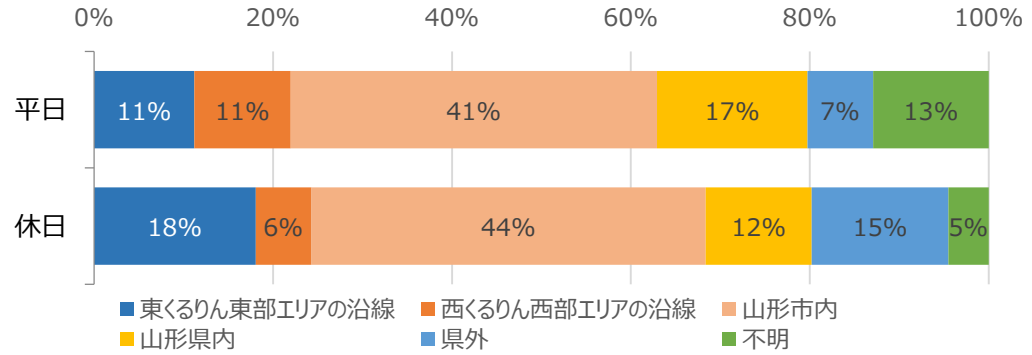


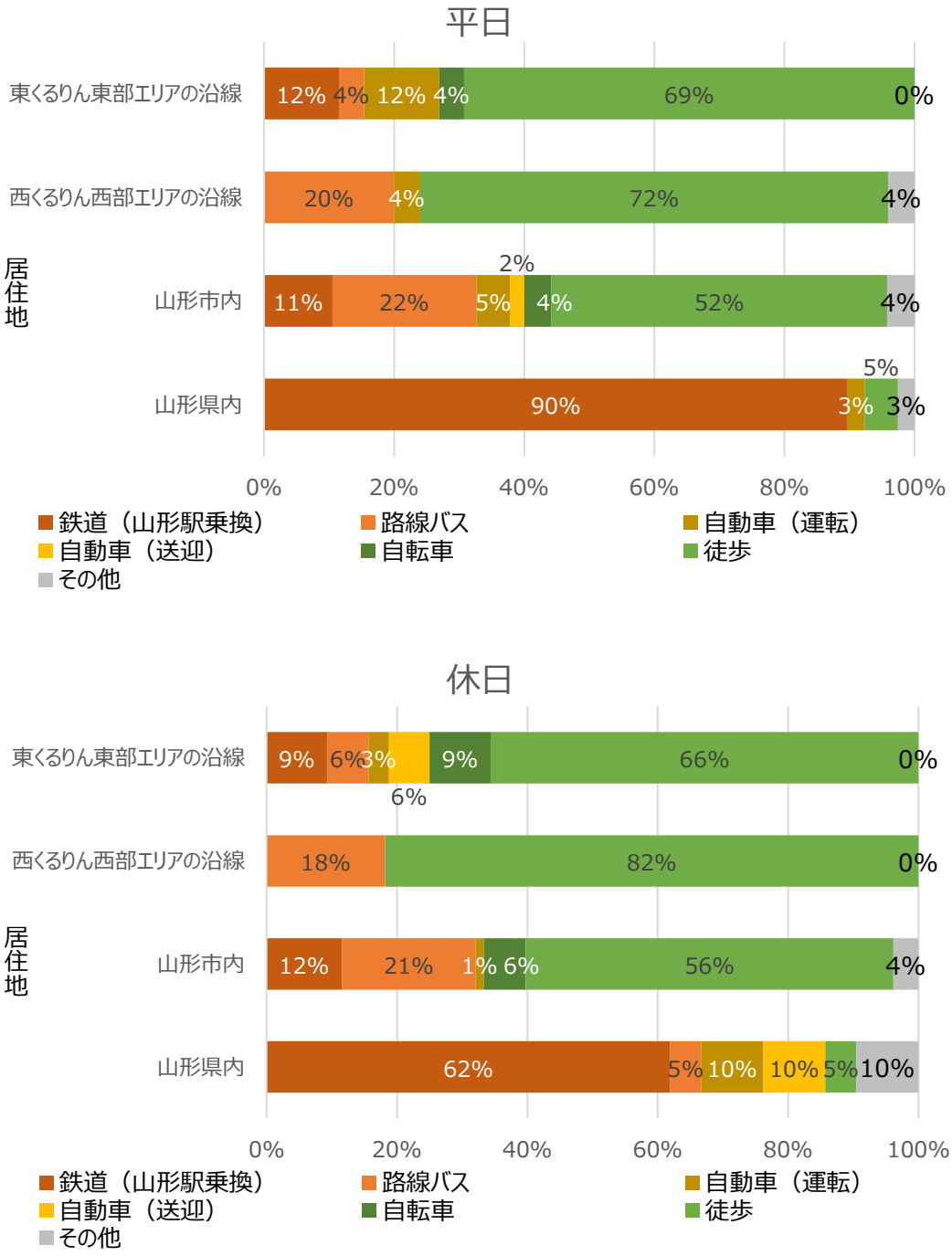
図 4-16　利用者の年齢別構成比（平日・休日別）



※沿線エリア：バス停からおおむね徒歩 5 分以内

図 4-17　利用者の居住地別構成比（平日・休日別）

ベニちゃんバスの利用者の多くは、自宅からベニちゃんバスに乗車するまでの間は徒歩で移動していることから、徒歩圏内に居住している人は多いことが分かる。山形市内や西部エリア沿線部に居住している人の 2 割は路線バスから乗り継ぎをしている。県内利用者の多くは平日は鉄道からの乗り継ぎだが、休日は自動車からベニちゃんバスに乗り継いでいる利用も 2 割程度存在する。



※沿線エリア：バス停からおおむね徒歩 5 分以内

図 4-18　利用者の居住地別　自宅～ベニちゃんバスの交通手段分担率（平日・休日別）

ベニちゃんバスは、平日・休日ともに山形駅周辺や七日町周辺を目的とした利用者が多く中心市街地での周遊に寄与している。ベニちゃんバスの利用者は、ベニちゃんバスの乗車前後は徒歩で移動している人が多いと考えられる。

ベニちゃんバスは、平日・休日ともに買物での利用者が多い。

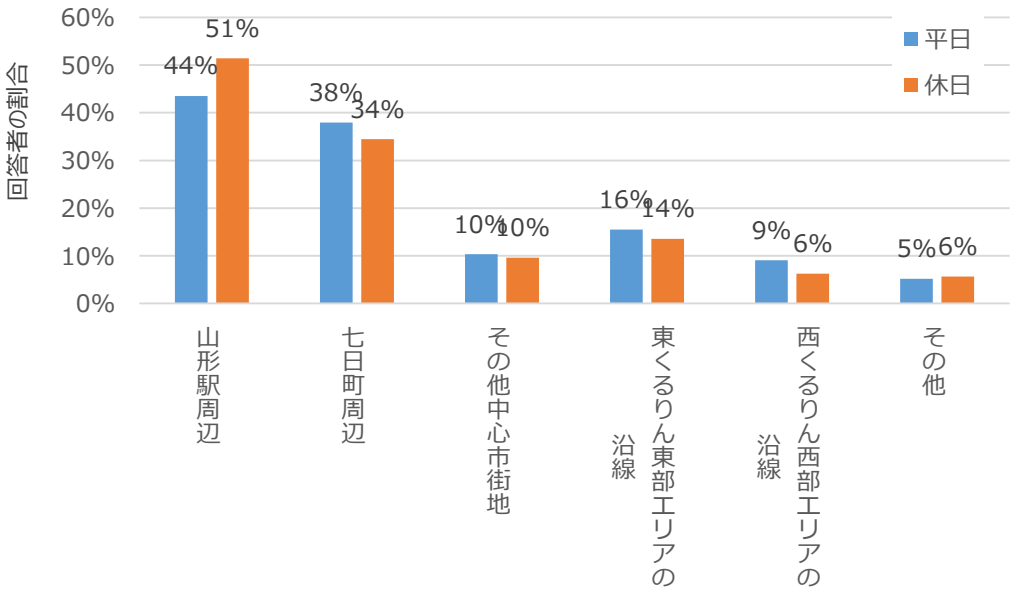


図 4-19　利用者の主な目的地（平日・休日別）【複数回答】

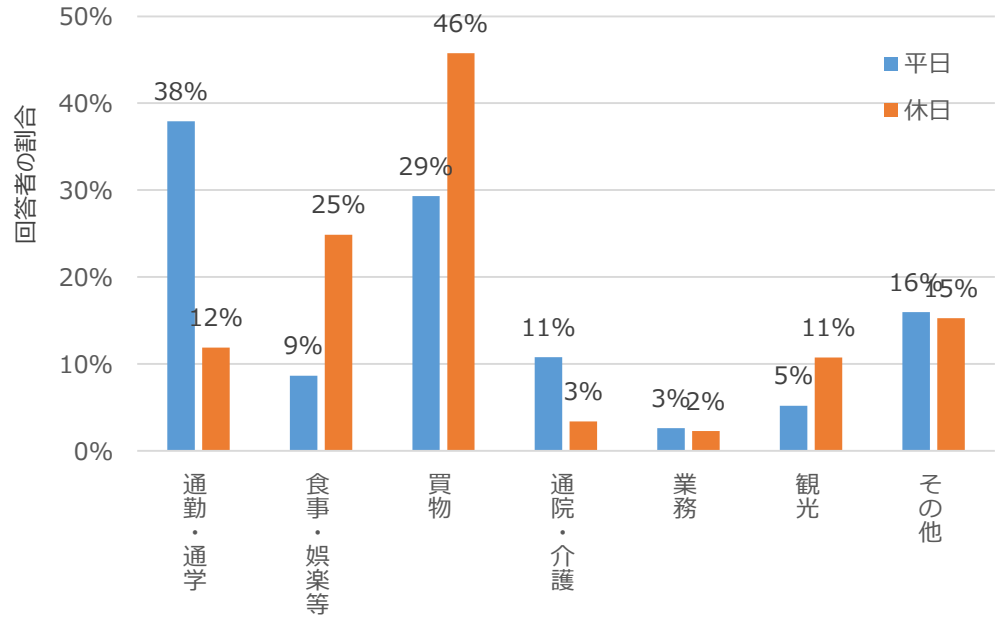


図 4-20　利用者の主な目的（平日・休日別）【複数回答】

ベニちゃんバス利用者の目的地での消費額は、平日で平均 1,400 円、休日で平均 2,000 円程度である。立寄り箇所数は、平日で平均 1.5 箇所、休日で平均 1.7 箇所程度であり、中心市街地の消費・周遊に寄与している。

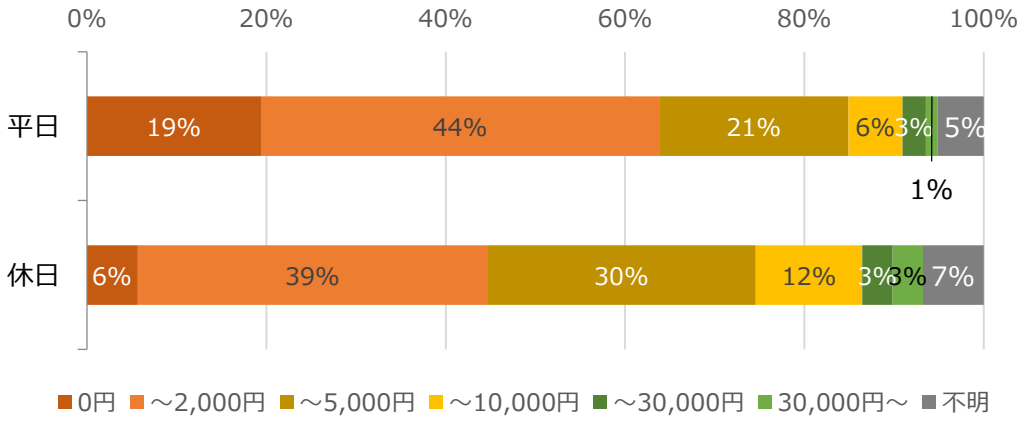


図 4-21　目的地での消費額の構成比（平日・休日別）

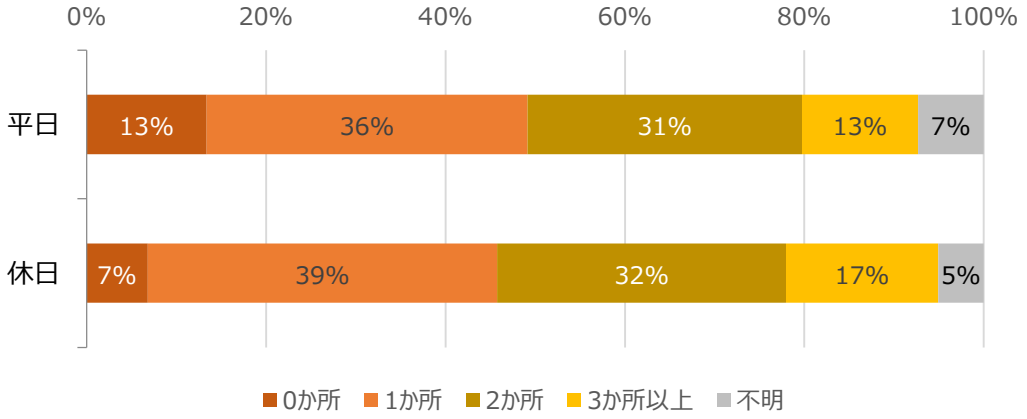


図 4-22　目的地点数の構成比（平日・休日別）

(2) ベニちゃんバスへの改善要望

ベニちゃんバスへの改善要望は「運行頻度」「交通系 IC カード導入」が比較的多い。これらの要望は、39 歳以下の比較的若い世代からの要望が多い。

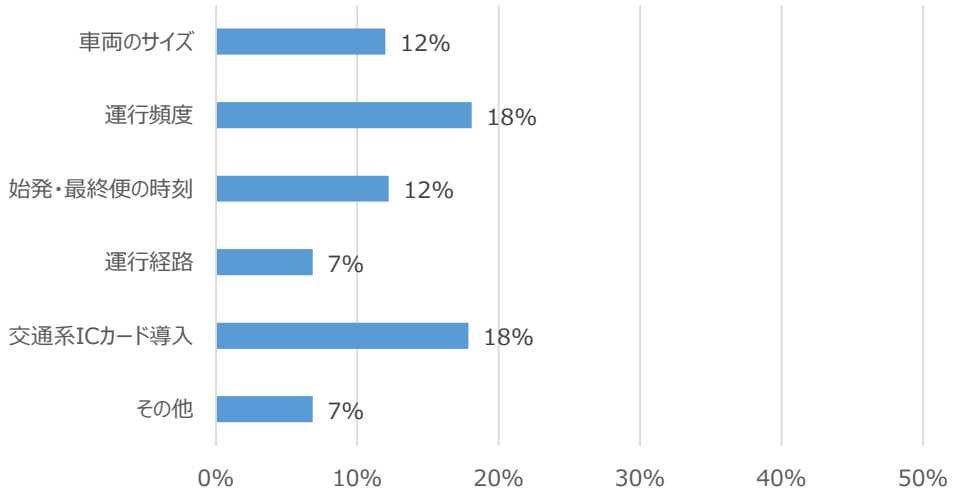


図 4-23　改善要望【複数回答】

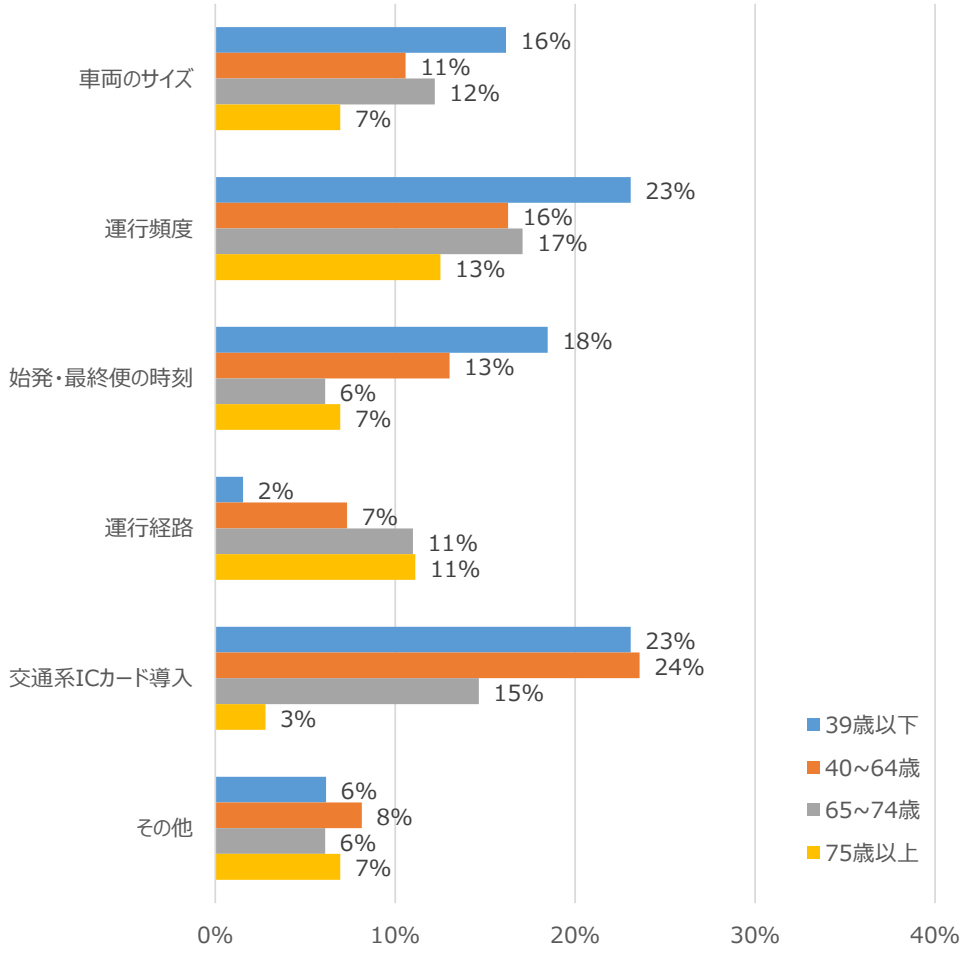


図 4-24　年齢階層別の改善要望【複数回答】

目的地別でも「運行頻度」の改善要望はいずれも多いが、特に東くるりん沿線や西くるりん沿線を目的地としている利用者の要望が多い。「交通系 IC カード導入」は、西くるりん沿線を目的地としている利用者以外からは要望が多く、特に中心市街地を目的地としている利用者からの要望が多い。「車両サイズ」への改善要望は、その他中心市街地、東くるりん沿線が目的地の利用者が比較的多い。

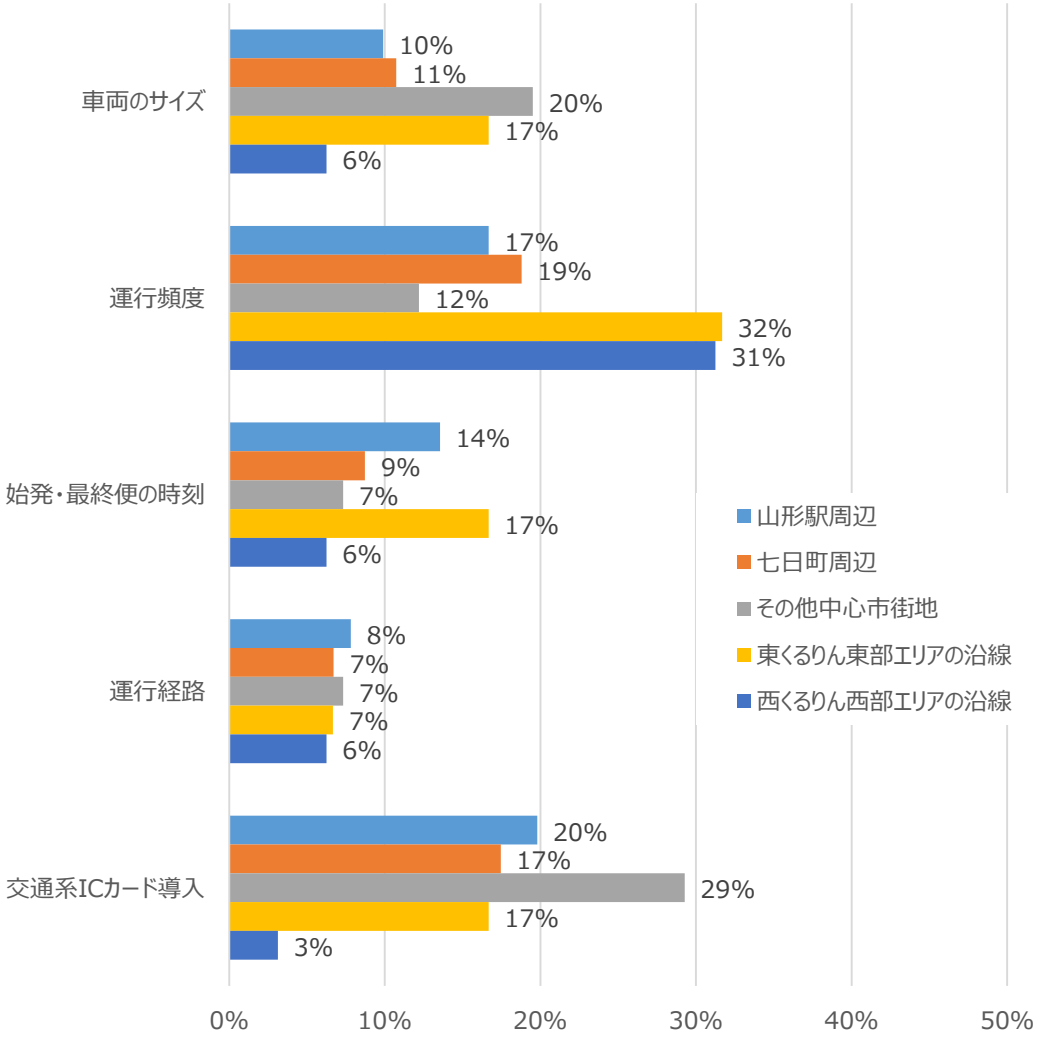


図 4-25　目的地別の改善要望【複数回答】

4-3. 市民アンケート

4-3-1. 調査の概要

1）実施主体

・福島大学吉田研究室と山形市企画調整課の共同実施

2）目的

・市民の日常の外出状況や公共交通の利用に関する調査を実施し、その分析結果を計画に反映させるため。

3）対象

・15 歳以上の山形市民

4）調査方法

・郵送配布／郵送もしくは Google Form による回収

・15 歳以上の山形市民から 1,500 名を無作為抽出し，各世帯に 2 部ずつ調査票を郵送

5）調査日

・令和 2 年（2020 年）12 月 15 日 発送／web 回答開始

・令和 3 年（2021 年）1 月 8 日 消印有効／web 回答締切

6）配布数及び回答数

・配布数：1,500 世帯

・回答数：1,025 件（郵送 918 件，web107 件）

※ うち 2 名が長期帰省中の大学生。以降の分析から除外

7）回答者の年齢層（年齢の回答があったサンプルのみ）

年齢層	人数	割合	年齢層	人数	割合
～14歳	7	0.7%	55～64歳	174	18.0%
15～24歳	59	6.1%	65～74歳	197	20.4%
25～34歳	86	8.9%	75～84歳	160	16.6%
35～44歳	126	13.1%	85～歳	31	3.2%
45～54歳	125	13.0%	計	965	100.0%

8）調査内容

日常の外出と公共交通に関する アンケートのお願い

日頃より山形市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在、山形市では「山形市地域公共交通計画」の策定を進めております。この計画は、現在の「山形市地域公共交通網形成計画」を改訂し、市民の自立した生活の確保、活力ある都市活動の実現、観光その他の地域間交流の促進を図るため、市内公共交通の現状や将来的なまちづくりを踏まえ、利便性の高い公共交通ネットワークの再構築を検討していくものです。

計画策定にあたり、山形市の中心的な公共交通である路線バスについて、皆様のご意見を伺い、計画に反映させてまいりたいと考えております。

つきましては、大変恐縮ですが、本アンケートの趣旨をご理解のうえ、ご協力くださるようお願い申し上げます。

令和２年１２月

山形市長　佐　藤　孝　弘

【調査対象】　この調査票は、令和 2 年 10 月 31 日現在の住民基本台帳から調査対象として無作為に選ばれた方にお送りしています。

各世帯に２部ずつお送りしましたので、世帯主の方に限らずお住まいの方の中から２件、それぞれのお立場でご回答ください。

※ おひとりでお住まいの方は、１件のみご回答ください。

【回収方法】①郵送方式と、②Google Form での回答方式があります。

① 郵送方式：調査票を**令和３年１月８日（金）までに**返信用封筒（切手不要）に入れて投函願います。

② Google Form での回答：下記の URL もしくは、右の QR コードで**令和３年１月８日（金）までに**ご回答ください。郵送での回答は不要です。

【URL】https://forms.gle/aC3RbSxpDyaDLSLZ6

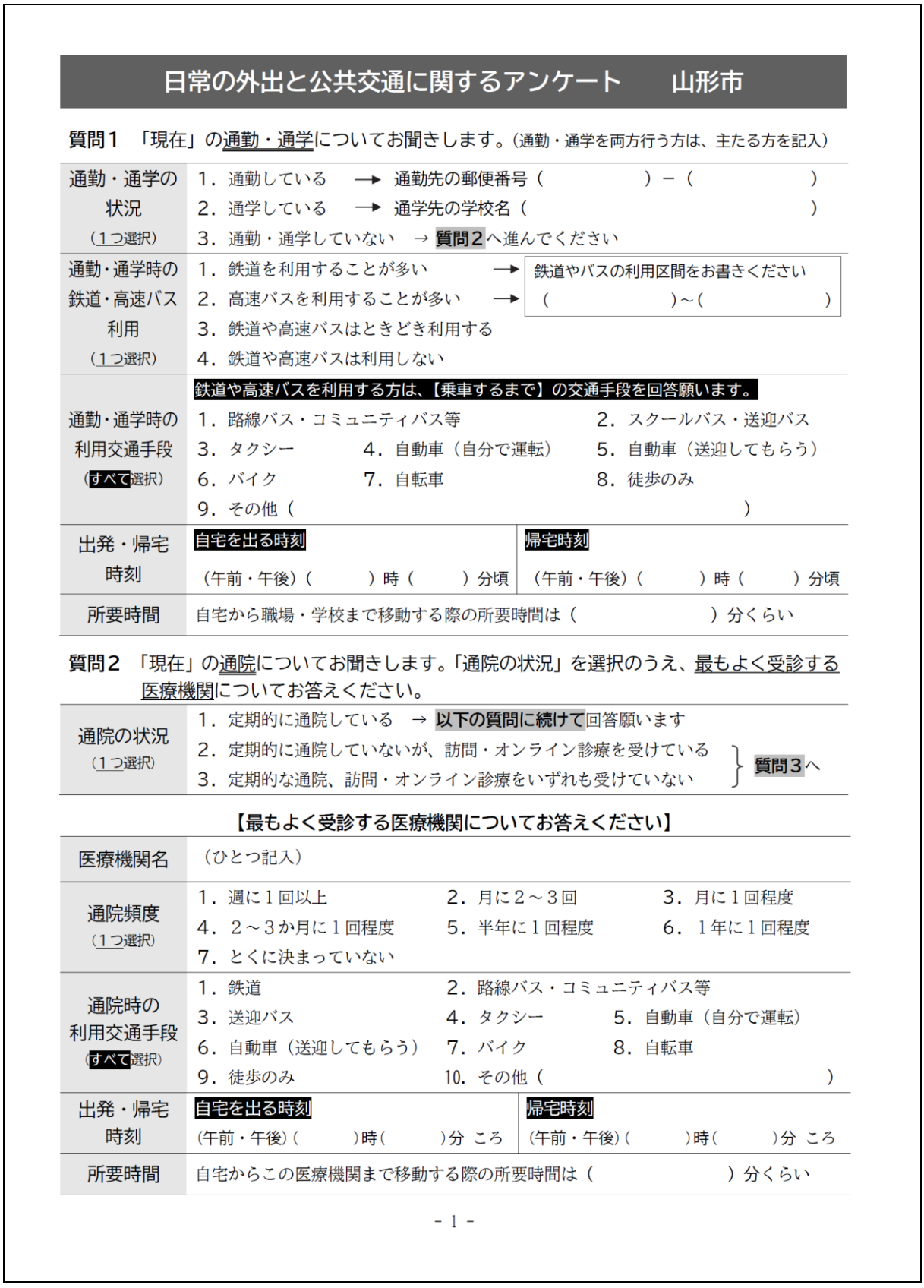
【個人情報について】このアンケートは、公共交通政策の立案に利用します。統計的に処理され、個人が特定されることはありません。

【お問い合わせ先】山形市企画調整部企画調整課（担当：宮城、山口）

TEL 023-641-1212（内線 223）

※ 調査協力：国立大学法人福島大学経済経営学類吉田研究室

図 4-26　市民アンケート調査票（依頼状）



日常の外出と公共交通に関するアンケート　山形市

質問1　「現在」の通勤・通学についてお聞きします。（通勤・通学を両方行う方は、主たる方を記入）

通勤・通学の状況 （1つ選択）	1．通勤している　→　通勤先の郵便番号（　　）－（　　） 2．通学している　→　通学先の学校名（　　） 3．通勤・通学していない　→ **質問2** へ進んでください
通勤・通学時の鉄道・高速バス利用 （1つ選択）	1．鉄道を利用することが多い　→　鉄道やバスの利用区間をお書きください（　　）～（　　） 2．高速バスを利用することが多い　→ 3．鉄道や高速バスはときどき利用する 4．鉄道や高速バスは利用しない
通勤・通学時の利用交通手段 （**すべて**選択）	**鉄道や高速バスを利用する方は、【乗車するまで】の交通手段を回答願います。** 1．路線バス・コミュニティバス等　2．スクールバス・送迎バス 3．タクシー　4．自動車（自分で運転）　5．自動車（送迎してもらう） 6．バイク　7．自転車　8．徒歩のみ 9．その他（　　）
出発・帰宅時刻	**自宅を出る時刻** （午前・午後）（　　）時（　　）分頃 **帰宅時刻** （午前・午後）（　　）時（　　）分頃
所要時間	自宅から職場・学校まで移動する際の所要時間は（　　）分くらい

質問2　「現在」の通院についてお聞きします。「通院の状況」を選択のうえ、最もよく受診する医療機関についてお答えください。

通院の状況 （1つ選択）	1．定期的に通院している　→ **以下の質問に続けて** 回答願います 2．定期的に通院していないが、訪問・オンライン診療を受けている 3．定期的な通院、訪問・オンライン診療をいずれも受けていない　} **質問3** へ

【最もよく受診する医療機関についてお答えください】

医療機関名	（ひとつ記入）
通院頻度 （1つ選択）	1．週に1回以上　2．月に2～3回　3．月に1回程度 4．2～3か月に1回程度　5．半年に1回程度　6．1年に1回程度 7．とくに決まっていない
通院時の利用交通手段 （**すべて**選択）	1．鉄道　2．路線バス・コミュニティバス等 3．送迎バス　4．タクシー　5．自動車（自分で運転） 6．自動車（送迎してもらう）　7．バイク　8．自転車 9．徒歩のみ　10．その他（　　）
出発・帰宅時刻	**自宅を出る時刻** （午前・午後）（　　）時（　　）分 ころ **帰宅時刻** （午前・午後）（　　）時（　　）分 ころ
所要時間	自宅からこの医療機関まで移動する際の所要時間は（　　）分くらい

- 1 -

図 4-27　市民アンケート調査票（1/4 頁）

質問3　「現在」の食料品（肉や魚、卵など）の買物についてお聞きします。
「買物の状況」を選択のうえ、最もよく行く店舗についてお答えください。

買物の状況 （あなたの状況に近いものを1つ選択）	1．食料品の買物は自分自身で行うことが多い　→ **以下の質問に続けて**回答願います 2．食料品の買物は家族に任せることが多い 3．食料品の買物は移動販売を利用することが多い　} **質問4**へ 4．食料品の買物は宅配サービスを利用することが多い

【最もよく行く店舗についてお答えください】

店舗名・所在地	**店舗名**	**所在地**　市町村名（　　）市・町・村 町・字名（　　）
買物する頻度 （1つ選択）	1．週に5回以上　2．週に2～3回　3．週に1回程度 4．2～3週間に1回程度　5．月に1回程度　6．とくに決まっていない	
買物時の利用交通手段 （すべて選択）	1．鉄道　2．路線バス・コミュニティバス等 3．送迎バス　4．タクシー　5．自動車（自分で運転） 6．自動車（送迎してもらう）　7．バイク　8．自転車 9．徒歩のみ　10．その他（　　）	
買物行動や時間帯	1．通勤などのついでに立ち寄る方が多い 2．自宅から店舗へ直接行く方が多い	**立ち寄る日時**　（平日・土日祝日） （午前・午後）（　　）時（　　）分ころ
所要時間	自宅からこの店舗まで移動する際の所要時間は（　　）分くらい	

質問4　買回り品の購入についてお聞きします。

（1）**山形市中心部（山形駅・七日町周辺）**での**最近半年間**の買回り品の購入についてお聞きします。

買物した頻度 （1つ選択）	1．週に1回以上　2．月に2～3回　3．月に1回程度 4．2～3か月に1回程度　5．1回のみ　6．行かなかった → **（2）**へ
買物した際の利用交通手段 （すべて選択）	1．鉄道　2．路線バス・コミュニティバス等 3．送迎バス　4．タクシー　5．自動車（自分で運転） 6．自動車（送迎してもらう）　7．バイク　8．自転車 9．徒歩のみ　10．その他（　　）
購入品目 （すべて選択）	1．化粧品・医薬品　2．紳士・婦人・子供服　3．靴・バッグ 4．電化製品　5．書籍・文具　6．贈答品　7．それ以外の品目

（2）**山形市の郊外店舗**における**最近半年間**の買回り品の購入についてお聞きします。

買物した頻度 （1つ選択）	1．週に1回以上　2．月に2～3回　3．月に1回程度 4．2～3か月に1回程度　5．1回のみ　6．行かなかった → **（3）**へ
購入品目 （すべて選択）	1．化粧品・医薬品　2．紳士・婦人・子供服　3．靴・バッグ 4．電化製品　5．書籍・文具　6．贈答品　7．それ以外の品目

（3）**山形市以外にある店舗**での**最近半年間**の買回り品の購入についてお聞きします。

買物した頻度 （1つ選択）	1．週に1回以上　2．月に2～3回　3．月に1回程度 4．2～3か月に1回程度　5．1回のみ　6．行かなかった → **質問5**へ
購入品目 （すべて選択）	1．化粧品・医薬品　2．紳士・婦人・子供服　3．靴・バッグ 4．電化製品　5．書籍・文具　6．贈答品　7．それ以外の品目

図 4-28　市民アンケート調査票（2/4 頁）

質問５　５年前と比べて、あなた自身の外出環境はどのように変化しましたか。あてはまる選択肢に全て○印をつけてください。

1．外出頻度が減少した	2．外出頻度が増えた
3．自家用車を運転しなくなった	4．自家用車を運転するようになった
5．家族や知人等の送迎に頼れなくなった	6．家族や知人等の送迎に頼るようになった
7．行きたい場所が少なくなったと感じる	8．行きたい場所が増えたと感じる
9．山形市中心部を訪れる頻度が減った	10．山形市中心部への来訪頻度が増えた
11．山形市の郊外で買物する頻度が減った	12．山形市の郊外で買物する頻度が増えた
13．山形市以外で買物する頻度が減った	14．山形市以外で買物する頻度が増えた
15．一ヶ月の交通費が少なく済むようになった	16．一ヶ月の交通費が多くかかるようになった
17．外出がおっくうになった	18．外出したいと思うようになった
19．上記のなかでは変化していない	？．わからない

質問６　新型コロナウィルス感染症（COVID-19）の拡大を契機に、あなた自身の外出状況はどのように変化しましたか。あてはまる選択肢に全て○印をつけてください。

1．通勤や通学の頻度が減った	2．職場や学校から帰宅する時刻が早くなった
3．食料品の買物に出かける頻度が減った	4．買回り品の買物に出かける頻度が減った
5．医療機関を受診する頻度が減った	6．友人・知人に会いに行く頻度が減った
7．山形市中心部を訪れる頻度が減った	8．自宅近くの店舗を利用することが増えた
9．外出の同行者を減らすようになった	10．通販や宅配サービスの利用が増えた
11．外出先の混雑を気にするようになった	12．公共交通利用に不安を感じるようになった
13．見知らぬ人との相乗りに不安を感じるようになった	14．同僚や知人との相乗りに不安を感じるようになった
15．外出すること自体に不安を感じるようになった	16．外出自体をためらうようになった
17．上記のなかで該当するものはない	？．わからない

質問７　①～④の移動手段の現在の利用頻度について、新型コロナウィルス感染症（COVID-19）拡大前との比較とあわせてお答えください。

	現在の利用頻度		新型コロナ拡大前と比べて
① 自家用車（自分で運転）	1．週に３日以上 3．月に２～３日程度 5．月１日未満	2．週に１～２日 4．月１日程度 6．利用しない	1．利用が増えた 2．変わらない 3．利用が減った
② 家族や知人等の送迎	1．週に３日以上 3．月に２～３日程度 5．月１日未満	2．週に１～２日 4．月１日程度 6．利用しない	1．利用が増えた 2．変わらない 3．利用が減った
③ 路線バス・コミュニティバス・乗合タクシー	1．週に３日以上 3．月に２～３日程度 5．月１日未満	2．週に１～２日 4．月１日程度 6．利用しない	1．利用が増えた 2．変わらない 3．利用が減った
④ 通常のタクシー	1．週に３日以上 3．月に２～３日程度 5．月１日未満	2．週に１～２日 4．月１日程度 6．利用しない	1．利用が増えた 2．変わらない 3．利用が減った

図 4-29　市民アンケート調査票（3/4 頁）

質問8　山形市内の路線バス（ベニちゃんバス、地域交流バス、コミュニティバス、なども含みます）についてお聞きします。

（1）情報提供（時刻表、公共交通マップ、系統番号など）に関する満足度を教えてください。

1．満足　2．やや満足　3．普通　4．やや不満　5．不満　?．分からない

（2）山形市内の路線バスは、どのような点が改善されれば「使いやすくなる」と思いますか。
特に重要だと思われる選択肢を**3つまで**挙げてください。

1．便数を増やしてほしい → （平日・土日祝日）の（午前・午後）（　　）時（　　）分ころに（　　）から（　　）へ行く便
2．定期券の運賃を下げてほしい
3．定期券以外の運賃を下げてほしい
4．乗り降りしやすい車両にしてほしい
5．鉄道との接続を改善してほしい → （平日・土日祝日）の（午前・午後）（　　）時（　　）分ころに（　　）駅を（発車・到着）する列車との接続
6．他のバス路線との接続を改善してほしい
7．時刻表通りに運行してほしい
8．停留所を増やしてほしい → （　　）の付近に停留所があるとよい。
9．その他（　　）

質問9　最後に、あなたのことについてお伺いします。

性別・年齢	**性　別**　1．男性　2．女性　3．その他	**年　齢**　（　　）歳
世帯構成	1．単身　2．夫婦のみ　3．親子（親族の同居を含む） 4．3世代（親族の同居を含む）　5．兄弟姉妹など親族世帯のみ 6．その他（　　）	
職　業	1．学生・生徒　2．会社員・団体職員　3．公務員　4．自営業 5．農業　6．アルバイト・パート　7．主婦（夫）　8．無職 9．その他（　　）	
お住まい	**現住所の郵便番号** （　　）―（　　）	**5年前のお住まい** 1．現在と同じ　2．現在とは異なる
運転免許保有	1．自動車運転免許証を保有　2．原付・二輪の免許証のみ保有 3．運転免許を返納した　4．運転免許を保有したことはない	
運転免許の返納意識	1．5年以内に返納を考えている　2．返納を考えているが難しいと感じている 3．高齢になったら返納を考える　4．返納は考えていない 5．その他（　　）	
送迎する人の有無	1．いつも送迎を頼める人がいる　2．都合が合えば送迎を頼める人がいる 3．送迎を頼める人はいない	
休まずに歩ける距離	1．100m程度まで　2．300m程度まで　3．500m程度まで 4．1km程度まで　5．1.5km程度まで　6．1.5km以上	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

－ 4 －

図 4-30　市民アンケート調査票（4/4頁）

4-3-2.　市民アンケート結果

（1）自動車運転免許の保有状況

5 年前と比べ、高齢者や女性の自動車運転免許の保有率が上昇している。

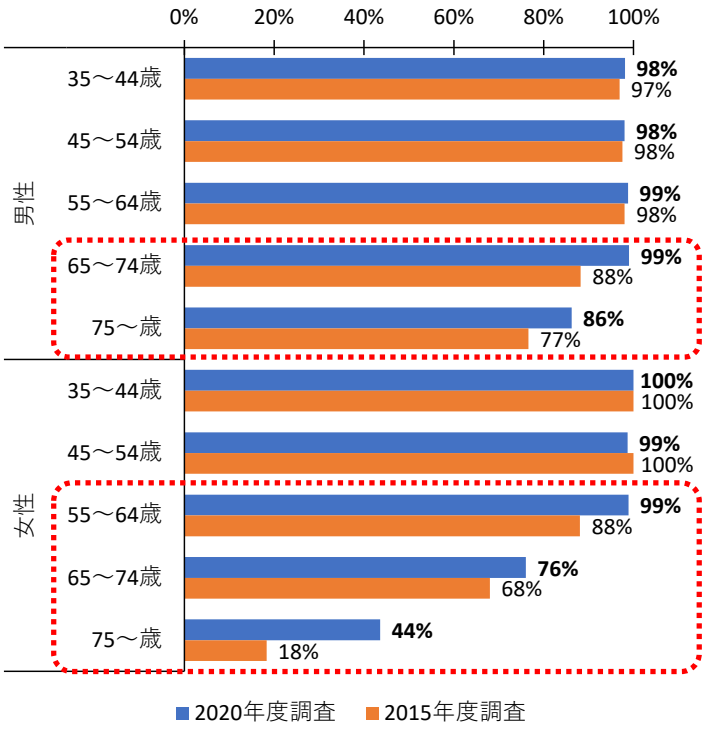


図 4-31　自動車運転免許の保有状況

(2) 自動車運転免許の保有状況と返納の意識

後期高齢者（75 歳以上）の約 2 割が運転免許を返納もしくは失効しており、免許返納等を考えている人と、そうでない人との割合が拮抗している。

一方で、前期高齢者（65～74 歳）については、「高齢になったら返納」または「考えていない」と回答した人が過半数に及び、運転免許の返納等をあまり考えていないことから、後期高齢者になってから返納等について考え始める傾向がある。

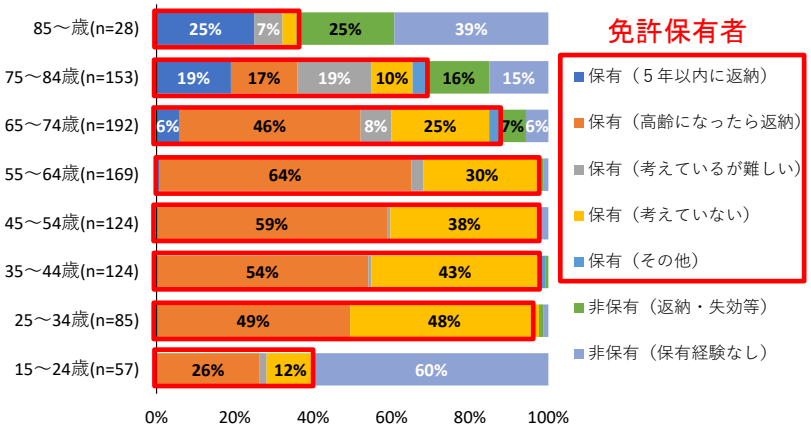


図 4-32　自動車運転免許の保有状況と返納の意識

(3) 自動車運転免許の返納に関わる状況（男女別）

女性は、後期高齢者に差し掛かると、運転免許の返納や失効を進める割合が高い傾向にある。「５年以内に返納」と答えた後期高齢者は、男性の方が多い。「考えているが難しい」とした後期高齢者は、男女とも４人に１人であった。

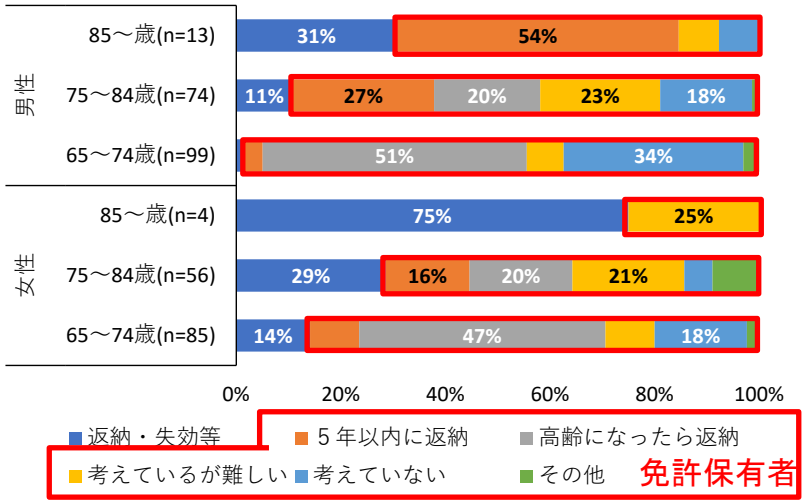


図 4-33　自動車運転免許の返納

(4) 連続して歩くことができる距離

75～84 歳では 1.5km 程度以上歩ける人が半数を占めるが、300m程度以下の方も 2 割いて、個人差が大きくなる。85 歳以上では 過半数が 100m程度までしか歩けない。

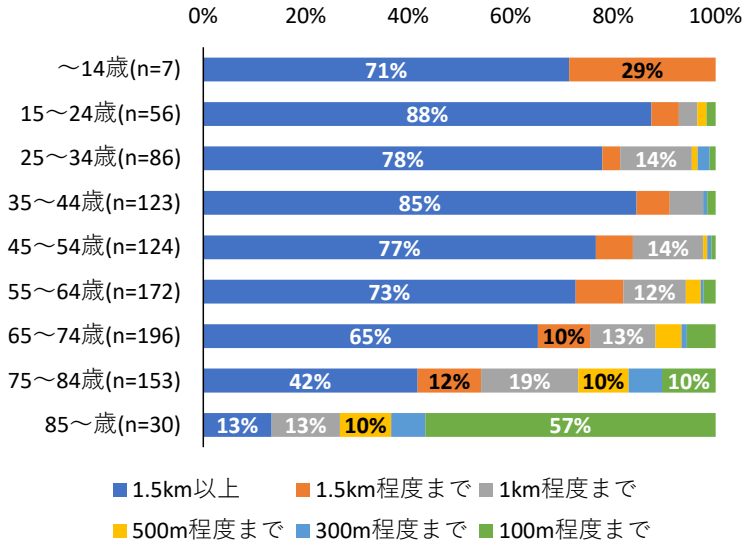


図 4-34　連続して歩くことができる距離

(5) 身体機能 × 運転免許の返納等への意識

「連続して歩くことができる距離」の個人差が大きくなる、75～84 歳の回答者に限定して自動車運転免許の返納への意識を集計した。

返納等をした人の 4 割は「連続歩行距離」が 300m程度以下であった。返納等を「考えていない」人の 7 割は 1.5km 以上歩ける。

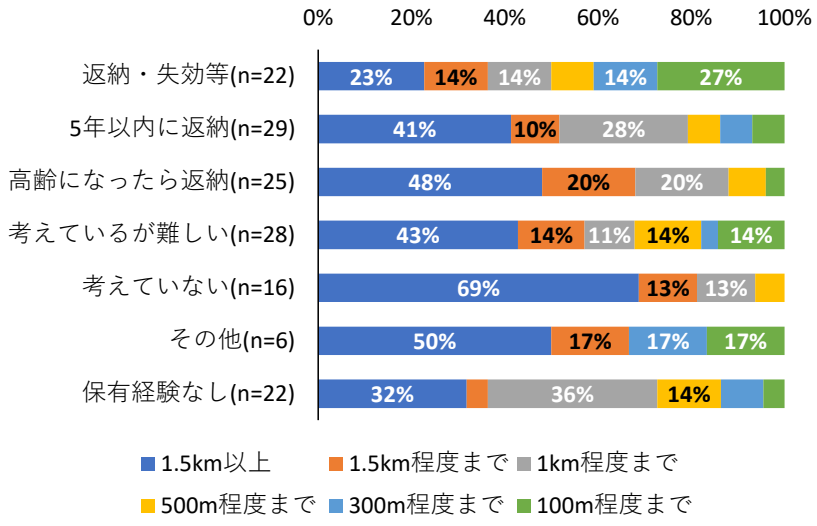


図 4-35　連続して歩くことができる距離と免許返納等への意識（75～84 歳の回答者のみ）

(6) 目的別代表交通手段

通学は「鉄道」「路線バス」が全体の約半数を占めている。通学や免許非保有者の移動を除くと、ほとんどが「自分で運転」による移動である。免許非保有者は、買物では、「自家用車の送迎」や「自転車」、「徒歩」が比較的大きな割合を占める。通院では、「タクシー」の割合が他の目的より大きい。山形市中心部への買物では、免許非保有者は「路線バス」が 4 割、免許保有者でも 1 割弱利用している。

代表交通手段	通勤	通学	食料品の買物（自動車運転免許）		通院（自動車運転免許）		買回品の買物（山形市中心部）（自動車運転免許）	
			（保有）	（非保有）	（保有）	（非保有）	（保有）	（非保有）
①鉄道	2%	**26%**	0%	3%	0%	1%	1%	2%
②高速バス	1%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
③路線バス	5%	23%	1%	13%	2%	16%	6%	**40%**
④送迎バス	0%	0%	0%	2%	0%	1%	0%	0%
⑤タクシー	0%	0%	0%	2%	1%	9%	0%	7%
⑥自分で運転	**81%**	4%	**88%**	0%	**85%**	0%	**76%**	0%
⑦自家用車の送迎	3%	11%	5%	**45%**	5%	**53%**	6%	37%
⑧バイク	0%	0%	1%	3%	1%	1%	1%	2%
⑨自転車	3%	15%	1%	19%	1%	6%	1%	10%
⑩徒歩	4%	17%	4%	13%	5%	13%	9%	3%
n	410	47	479	62	585	113	362	60

図 4-36　目的別代表交通手段

(7) 代表交通手段の変化（2015 年→2020 年）

食料品の買物、通院において、「路線バス」の分担率は、５年前から大きく変動していない。食料品の買物では「自家用車の送迎」の割合が大きくなり、「自転車」、「徒歩」が減少した。通院で免許非保有者の「自家用車の送迎」が倍増し、「タクシー」や「自転車」から移行した。

代表交通手段	食料品の買物				通院			
	2020年		2015年		2020年		2015年	
	（保有）	（非保有）	（保有）	（非保有）	（保有）	（非保有）	（保有）	（非保有）
①鉄道	0%	3%	0%	0%	0%	1%	0%	0%
②高速バス	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
③路線バス	1%	13%	1%	15%	2%	16%	2%	20%
④送迎バス	0%	2%	0%	0%	0%	1%	0%	0%
⑤タクシー	0%	2%	1%	2%	1%	9%	2%	21%
⑥自分で運転	**88%**	0%	**88%**	0%	**85%**	0%	**84%**	0%
⑦自家用車の送迎	5%	**45%**	5%	**33%**	5%	**53%**	4%	**29%**
⑧バイク	1%	3%	1%	0%	1%	1%	1%	0%
⑨自転車	1%	19%	3%	33%	1%	6%	3%	13%
⑩徒歩	4%	13%	3%	17%	5%	13%	4%	17%
n	479	62	272	52	585	113	362	60

図 4-37　代表交通手段の変化（2015 年→2020 年）

(8) 目的別トリップ（交通）発生時刻

1) 通勤

出発時刻は、午前 7～8 時台に全体の 4 分の 3 が集中している。21 時以降の帰宅割合は少ない。

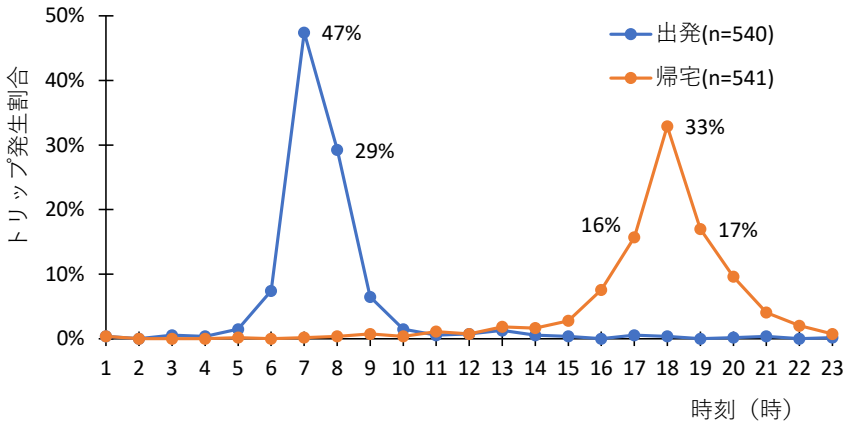


図 4-38　目的別トリップ（交通）発生時刻（通勤）

2) 食料品の買物（店舗の立寄り時刻）

免許非保有者は 10～11 時台に集中、免許保有者は 12 時台を除き 10～19 時台に分散している。

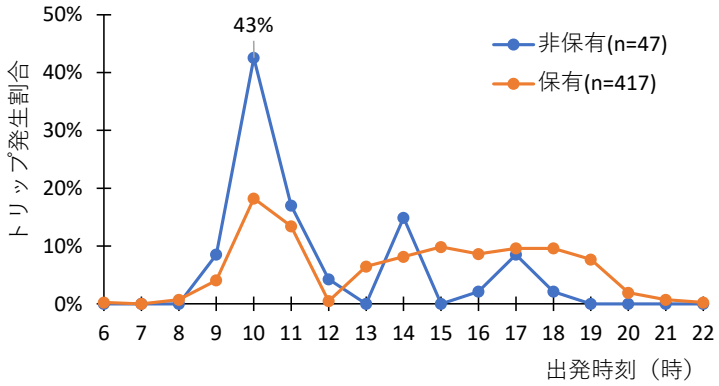


図 4-39　目的別トリップ（交通）発生時刻（食料品の買い物）

3）通院（出発）

出発時刻は、午前 8～10 時台に全体の 7 割が集中している。食料品の買物とは異なり、免許の保有有無による時間帯の差は小さい。

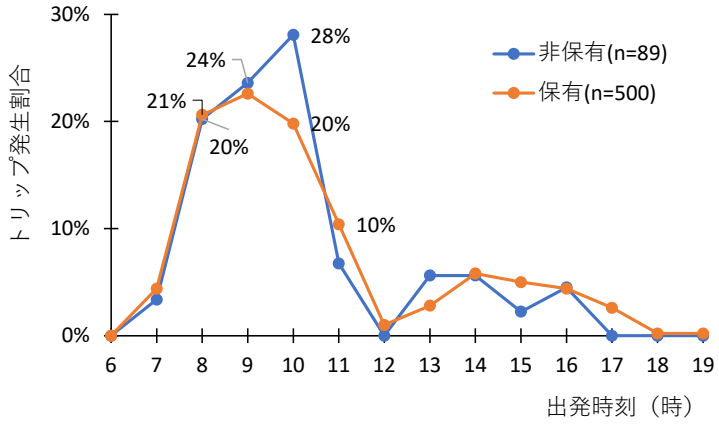


図 4-40　目的別トリップ（交通）発生時刻（通院（出発））

4）通院（帰宅）

帰宅時刻は、10～12 時台に全体の 3 分の 2 が集中している。免許の保有有無による時間帯の差は小さい。

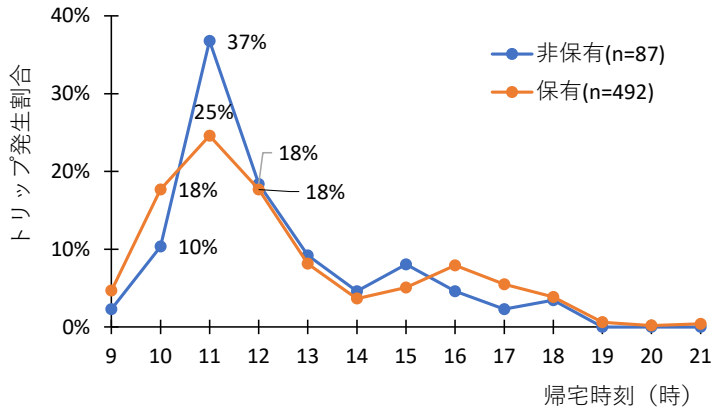


図 4-41　目的別トリップ（交通）発生時刻（通院（帰宅））

(9) 山形市中心部（七日町・山形駅）での買回り品の購入頻度

自動車運転免許の非保有者は、保有者より、山形市中心部の買物頻度が「5割多い」。

山形市中心部の買物頻度が多いのは「65～84歳」、その次が「15～34歳」であった。

路線バスで山形市中心部を訪れる人は、中心部での買物頻度が自家用車利用者の「約2倍」である。中心部で買物する人は郊外店も含め、市内での消費が旺盛であった。

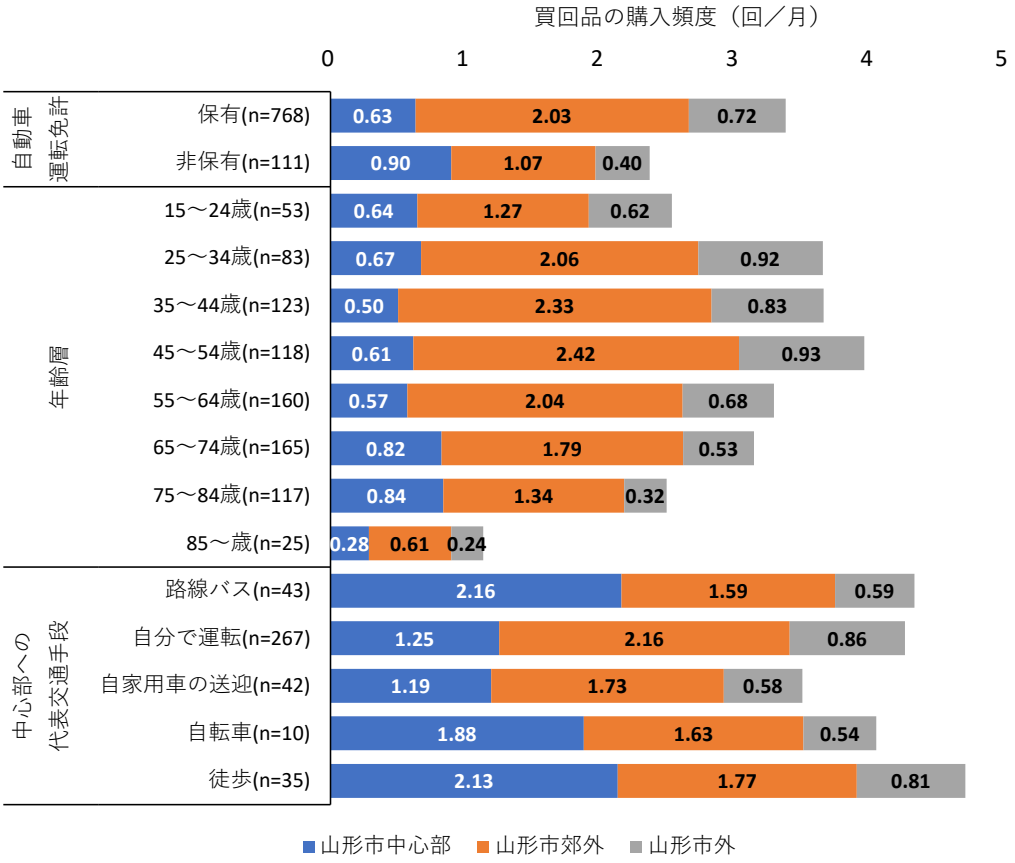


図 4-42　山形市中心部（七日町・山形駅）での買回り品の購入頻度

（10）外出状況の変化

外出状況の変化については新型コロナウイルスの影響が色濃くなっている。運転免許の有無に関わらず「外出頻度が減少」し、「行きたい場所が少なくなった」と回答した割合が増加した。「行きたい場所が増えた」は、24 歳以下の回答者で卓越している。

項目	2015年度調査		2020年度調査	
	自動車運転免許		自動車運転免許	
	保有	非保有	保有	非保有
外出頻度が減少した	24.0%	46.9%	50.1%	53.1%
外出頻度が増えた	18.8%	5.3%	8.0%	12.2%
自家用車を運転できなくなった	1.4%	9.7%	6.3%	17.7%
行きたい場所が少なくなった	15.1%	22.1%	38.5%	34.7%
行きたい場所が増えた	11.4%	6.2%	5.8%	9.5%
一ヶ月の交通費が少なく済むようになった	6.8%	4.4%	14.8%	16.3%
一ヶ月の交通費が多くかかるようになった	14.0%	6.2%	5.1%	8.8%
外出がおっくうになった	14.9%	31.0%	21.6%	29.3%
外出したいと思うようになった	7.6%	7.1%	4.8%	6.8%
変化なし	37.4%	28.3%	8.9%	6.8%
n	**484**	**113**	**847**	**147**

図 4-43　外出状況の変化

（11）外出状況の変化（年齢層別）

各年齢層で「行きたい場所が少なくなった」「外出頻度が減少した」など、「ネガティブな変化」が卓越するようになり、世代間で傾向の違いがなくなった。

34 歳以下では、5 年前より「自家用車を運転するようになった」人の割合が大きく低下した。

2010 ↓ 2015

項目	～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75～歳
自家用車を運転するようになった	48.6%	13.3%	10.8%	7.7%	9.2%	3.5%
行きたい場所が少なくなった	17.1%	5.3%	**25.8%**	**11.1%**	**16.2%**	**26.1%**
行きたい場所が増えた	**30.0%**	**18.7%**	6.5%	6.8%	6.2%	3.5%
外出がおっくうになった	17.1%	8.0%	**22.6%**	**16.2%**	**13.1%**	**30.4%**
外出したいと思うようになった	**21.4%**	**9.3%**	2.2%	4.3%	7.7%	6.1%
外出頻度が減少した	18.6%	10.7%	**26.9%**	**28.2%**	**30.0%**	**48.7%**
外出頻度が増えた	**41.4%**	**32.0%**	8.6%	14.5%	9.2%	5.2%
n	**70**	**75**	**93**	**117**	**130**	**115**

2015 ↓ 2020

項目	～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75～歳
自家用車を運転するようになった	26.0%	15.1%	8.0%	9.2%	9.1%	9.4%
行きたい場所が少なくなった	**27.3%**	**31.7%**	**34.4%**	**42.5%**	**41.1%**	**41.4%**
行きたい場所が増えた	18.0%	4.8%	5.6%	4.0%	5.1%	2.6%
外出がおっくうになった	**17.3%**	**15.1%**	**16.8%**	**21.3%**	**20.3%**	**37.7%**
外出したいと思うようになった	11.3%	7.1%	4.8%	1.7%	5.6%	1.0%
外出頻度が減少した	**41.3%**	**46.0%**	**41.6%**	**50.6%**	**50.3%**	**65.4%**
外出頻度が増えた	22.7%	6.3%	11.2%	5.2%	5.6%	3.7%
n	**150**	**126**	**125**	**174**	**197**	**191**

図 4-44　外出状況の変化（年齢層別）

（12）コロナ禍での外出状況の変化

通勤・通学・通院の「義務的な交通」への影響は小さい。一方で、「自宅近くの店舗を利用することが増えた」「公共交通利用に不安を感じるようになった」という人の割合が大きい。

新型コロナウイルス感染症拡大後の変化	回答者数／割合
外出先の混雑を気にするようになった	648 63.3%
友人・知人に会いに行く頻度が減った	589 57.6%
山形市中心部を訪れる頻度が減った	334 32.6%
外出すること自体に不安を感じるようになった	333 32.6%
買回り品の買物に出かける頻度が減った	306 29.9%
自宅近くの店舗を利用することが増えた	306 29.9%
外出自体をためらうようになった	300 29.3%
公共交通利用に不安を感じるようになった	288 28.2%
食料品の買物に出かける頻度が減った	282 27.6%
見知らぬ人との相乗りに不安を感じるようになった	260 25.4%
通販や宅配サービスの利用が増えた	247 24.1%
外出の同行者を減らすようになった	153 15.0%
医療機関を受診する頻度が減った	141 13.8%
同僚や知人との相乗りに不安を感じるようになった	122 11.9%
職場や学校から帰宅する時刻が早くなった	91 8.9%
通勤や通学の頻度が減った	55 5.4%
	n= 1023

図 4-45　コロナ禍での外出状況の変化

（13）コロナ禍での公共交通利用の減少

乗合交通（路線バス等）は、通学・通勤需要が主体の「週３日以上」の利用者の減少は限定的であった（「増えた」は新入生の影響）。タクシーは、高頻度利用者ほど利用が「減った」割合が増加した。

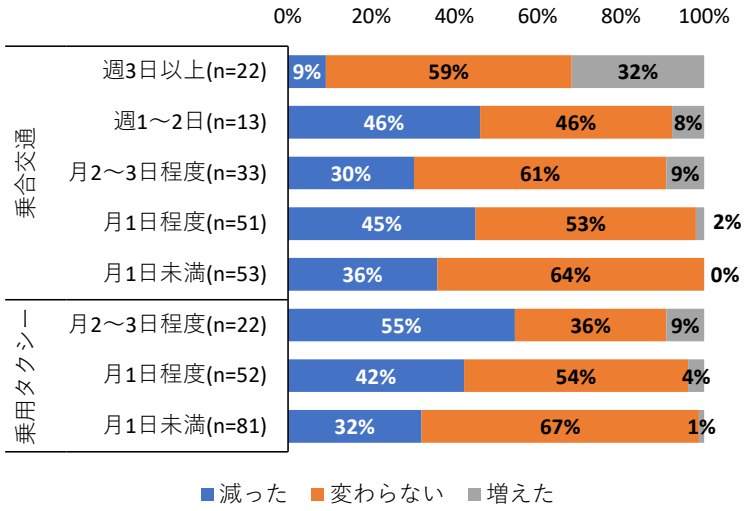


図 4-46　コロナ禍での公共交通利用の減少

乗合交通（路線バス等）は、「公共交通利用に不安を感じる」層の利用減が卓越した。「公共交通利用に不安を感じる」層は、自家用車利用に移行した可能性がある。タクシーは、「公共交通利用に不安を感じる」ことの利用減は見られない。

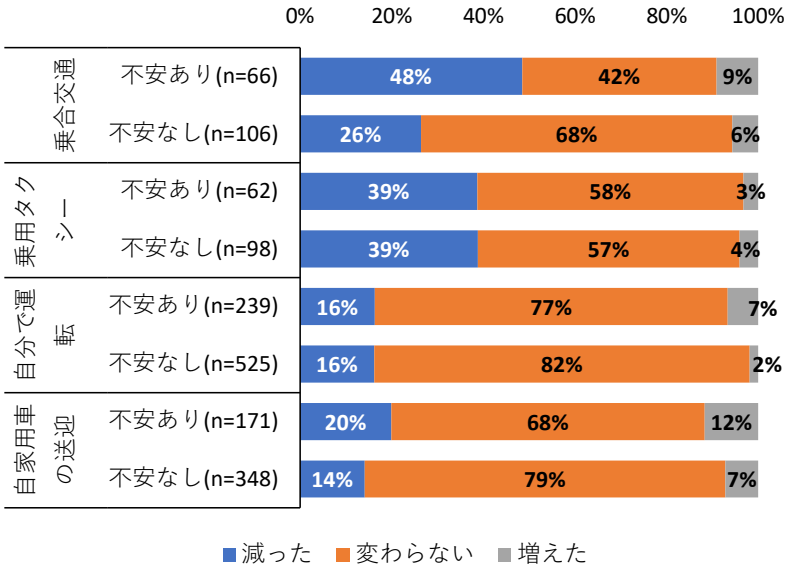


図 4-47　コロナ禍での公共交通利用の不安

（14）山形市における路線バス等の改善要望

1）5 年前との比較

「便数を増やしてほしい」が、前回首位の「定期券以外の運賃を下げてほしい」を上回った。「停留所を増やしてほしい」も上位になった。

「乗り降りしやすい車両」や「他のバス路線との接続改善」は下位になっており、車両更新、既存路線のパターンダイヤ化、バスロケーションシステムの導入に一定の効果があったと考えられる。

前回（2015年度調査）	
項目	回答者数
定期券以外の運賃を下げてほしい	162
便数を増やしてほしい	105
乗り降りしやすい車両を使用してほしい	97
他のバス路線との接続を改善してほしい	87
停留所を増やしてほしい	77
時刻表通りに運行してほしい	73
定期券の運賃を下げてほしい	62
鉄道との接続を改善してほしい	16
n	**617**

今回（2020年度調査）	
項目	回答者数
便数を増やしてほしい	217
定期券以外の運賃を下げてほしい	193
停留所を増やしてほしい	115
時刻表通りに運行してほしい	101
乗り降りしやすい車両にしてほしい	99
他のバス路線との接続を改善してほしい	85
定期券の運賃を下げてほしい	79
鉄道との接続を改善してほしい	37
n	**1023**

図 4-48　山形市における路線バス等の改善要望

2）利用者と非利用者の比較

利用者と非利用者を比較すると、「月 1 回以上利用者」の方が、改善点を多く挙げる傾向があった。「非利用者」は「その他」意見に「分からない」と記載するケースもある。「その他」意見には，「IC カードの導入」も多く記載された。

	月1回以上利用者		非利用者	
便数を増やしてほしい	46	**37.4%**	136	18.6%
定期券の運賃を下げてほしい	12	**9.8%**	58	7.9%
定期券以外の運賃を下げてほしい	30	**24.4%**	143	19.6%
乗り降りしやすい車両にしてほしい	11	8.9%	78	**10.7%**
鉄道との接続を改善してほしい	7	**5.7%**	23	3.2%
他のバス路線との接続を改善してほしい	17	**13.8%**	62	8.5%
時刻表通りに運行してほしい	15	**12.2%**	71	9.7%
停留所を増やしてほしい	15	**12.2%**	85	11.6%
n	**123**		**730**	

図 4-49　山形市における路線バス等の改善要望（利用者と非利用者との比較）

（15）山形市における路線バス等の情報提供に対する満足度

5 年前と比べて「満足」と回答している人の割合が小さくなっているが、満足している割合（「満足」と「やや満足」の計）が不満と回答した割合（「やや不満」と「不満」の計）よりは大きい結果となった。

また、「分からない」と回答している割合が大きくなっている。これは、5 年前は「情報提供に関する満足度」としたところを、令和 2 年（2020 年）度の調査では、「情報提供（時刻表、公共交通マップ、系統番号）に関する満足度」と具体に例示したことによる影響であると考えられる。

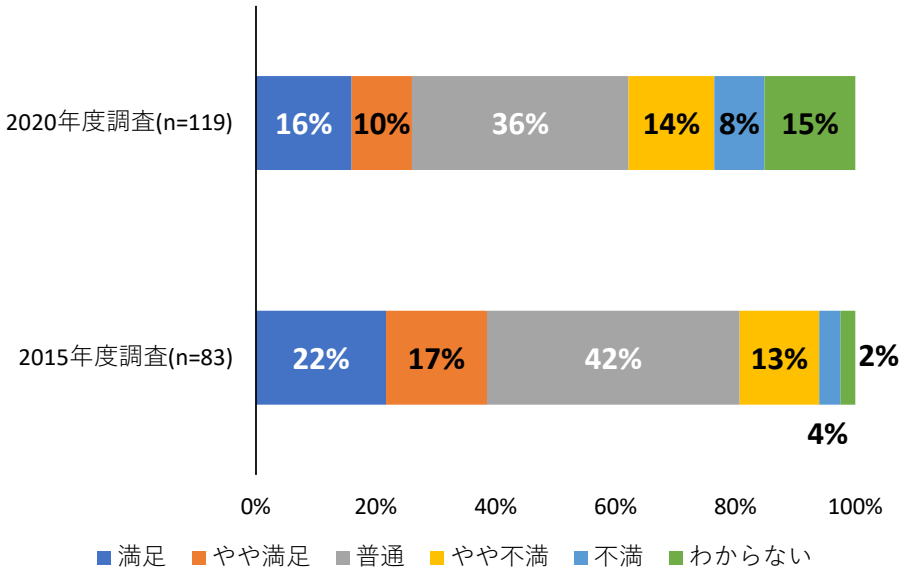


図 4-50　山形市における路線バス等の情報提供に対する満足度